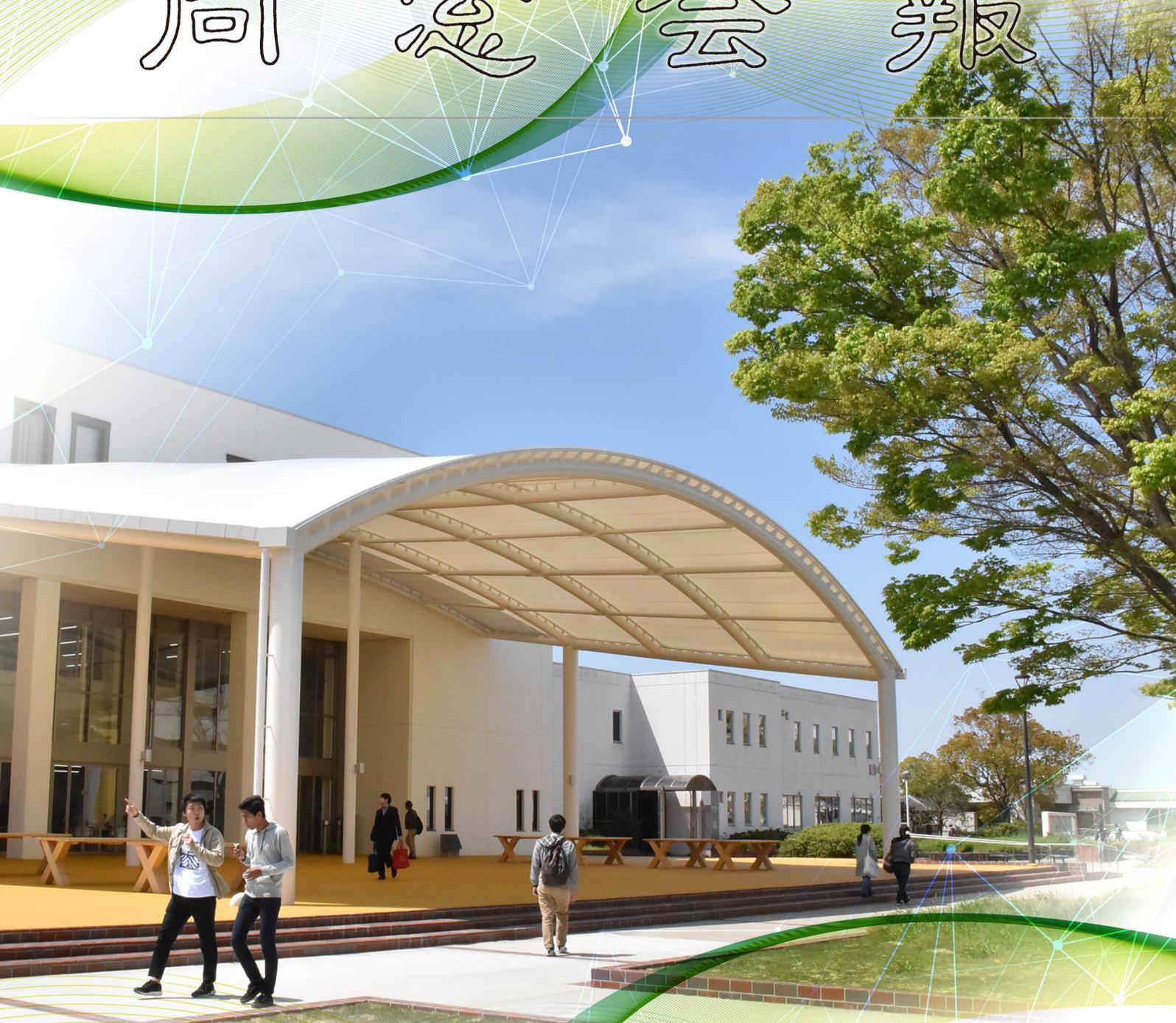




国立大学法人

豊橋技術科学大学

# 同窓会報



第35号 2018 豊橋技術科学大学同窓会

2018  
No. **35**





同窓会会長挨拶

## 日本の科学技術力向上に同窓会も貢献を！

旧第3系(電気・電子工学)1期 古野 志健男

<2017年度 (株)SOKEN 専務取締役>

豊橋技術科学大学同窓会の皆様方におかれましては、常日頃より同窓会活動に対しましてご理解とご協力を賜りまして誠にありがとうございます。改めて心より深く御礼申し上げます。

さて、昨今の世界情勢に目を転じますと、政治面では、トランプ大統領に代表されますように自国第一主義の方向に主な国々が変革して行きそうですし、環境面では、世界の大気平均CO<sub>2</sub>が2016年で403.3ppmと3.3ppm/年も激増して異常気候による被害が多発し、技術面ではAI、IoT、ビッグデータや自動運転技術が予想以上に世界で進展していることは、皆様ご存知の通りです。そんな中、地下資源もほとんどなく、少子高齢化で人口減少が進んでいる我々の日本の将来は決して安泰できる状況にないの言うまでもございません。日本では科学技術力の強化による経済産業力をさらに向上していくべく、多くの産学官の国家プロジェクトが人材育成も含め危機感を持って推進されて居ります。日本の唯一の資源は人材、特に若い技術科学人材ですので、そこに対して豊橋技術科学大学でも、大きく貢献していくべく戦略的&積極的かつグローバルに種々の研究施策を実行し挑戦されています。それに対し同窓会と致しましても大学とのクルマの両輪として社会に貢献できるような活動をしていくべきだと痛感して居ります。

一方、我々の豊橋技術科学大学同窓会は2017年で35周年を迎えた訳ですが、1万人を超える仲間の名簿情報の精度があまり向上して居りません。2年前にセキュリティー万全なWeb名簿システムを構築し、会員の皆様方に情報更新のお願いをさせて頂きましたが、充分にはご協力戴けていない状況です。皆様方の連携や活動を広げるためにも、お手数ですが、是非同窓会のホームページにアクセス戴き最新情報を入力して戴けますと大変有難く存じます。

その状況の中、2017年度同窓会では、総会や役員会での議論により下記のような活動を進めて居ります。例えば、同窓生間の年次や系を越えた人脈の輪を広げ、同窓会の皆様方もさらに飛躍できるように活性化していくべく組織ネットワーク、OG(女性)ネットワーク、海外ネットワークを進めています。また、在学生への支援と致しまして、大学企画で支援されている学食での「めざましごはん」に同窓会も便乗させて頂き、毎週月曜日には同窓会支援の「めざましごはん」を2018年1月から開始致しました。その他の活動として、例年企画の「会報の発行」、「OB/OG親睦会支援」、「優秀学生の表彰」、「クラブ活動支援」、「卒業パーティー共催」などがございます。

是非、皆様方も最近の豊橋技術科学大学を一度訪問されるとか、皆様方の組織内での技科大OB/OGの集まりを企画し交友を深めて戴けますと大変有難く存じます。その際、同窓会から支援させて頂きます。

重ねて、同窓会活動への皆様方のご協力・ご鞭撻を深くお願いして、挨拶に代えさせて頂きます。

## 開学40周年記念事業

### 豊橋技術科学大学同窓会会長賞の新設

開学40周年記念同窓会事業の一つとして、研究者・技術者としての更なる飛躍が期待される学生を支援することを目的として、同窓会会長賞を新設し、本学大学院に進学予定の学部4年次成績優秀者19名を表彰しました（表彰学生の選出は各系に一任）。

所属課程	表彰学生※
機械工学課程	伊藤 寛和, 小林 正典, 宮城 祥, 谷 勇希, 熊田 彩花, 松木 大輝
電気・電子情報工学課程	川口 佑磨, 前川 啓一郎, 森田 翔亮, 安井 大貴
情報・知能工学課程	荒 綾美, 小島 幹, 高島 侑里, 鶴澤 直輝
環境・生命工学課程	中神 光喜, 渡邊 涼太, 西川 ちひろ
建築・都市システム学課程	高橋 功, 渡辺 一葵

※各課程の所属学生数を考慮して表彰学生数を決めているため、課程間で差があります。

平成29年3月23日に大学食堂で開催された卒業記念パーティー冒頭に同窓会会長賞授与式を実施し、古野会長から各学生に賞状・副賞を授与しました。本制度は、今後も継続して実施する予定です。



同窓会会長賞授与式にて挨拶する古野会長



学生への賞状の授与



古野会長と受賞学生との記念撮影

# 1

## 機械工学系



### 学内近況報告

系長 河村 庄造

同窓生の皆様におかれましては、お元気にご活躍のこととお慶び申し上げます。

ご存知のように本学は、平成22年4月に学部、大学院組織を、それまでの8つから5つに更新する学内再編を行いました。そして現在では、旧1系(機械システム工学系)と旧2系(生産システム工学系)は一体となって「機械工学系」として活動しております。すでに在籍学生全員が、入学・編入学当初から「機械工学課程」の所属であり、旧1系、旧2系という名称を全く知らない学生たちです。また再編後に着任された教員も旧系を知りません。そのような教員が今後は増えていきます。

さて現在の系内組織は以下の4つの分野から構成されています。

- ・機械・システムデザイン分野
- ・材料・生産加工分野
- ・システム制御・ロボット分野
- ・環境・エネルギー分野

各分野はそれぞれが4つの研究室から構成されており、「機械・システムデザイン分野」、「システム制御・ロボット分野」は旧1系、旧2系の研究室が融合しています。

学生教育に対する全学的な活動としては「スーパーグローバル大学創成事業(グローバル技術科学アーキテクト)養成キャンパスの創成」、「国立大学改革強化推進事業(三機関(豊橋技術科学大学、長岡技術科学大学、国立高等専門学校機構)が連携・協働した教育改革)」や「博士課程教育リーディングプログラム(「ブレイン情報アーキテクト」の育成)」などがあり、本系も積極的に関与していますが、本系が主体となっている新しい教育プログラムとしては、博士前期課程の「シュツットガルト大学(ドイツ)とのダブルディグリープログラム」、「東北

大学(中国)とのツイニングプログラム」などがあります。

さて最近の教員の異動についてご紹介いたします。「機械・システムデザイン分野」では、永井助教が1年間の米国留学(UCLA)から帰国され、講師に昇任されました。また石井先生が、他大学から助教として着任されました。「材料・生産加工分野」では、戸高准教授が教授に昇任されました。「システム制御・ロボット分野」では、阪口助教が准教授に昇任されました。「環境・エネルギー分野」では、長きにわたって本学の教育・研究に携わってこられた野田先生が平成27年度末をもって定年を迎えられ、ご退職なさいました。その後は特定教授としてもうしばらく本学に残り、教育・研究を続けていただいております。

本学、本系を取り巻く環境はめまぐるしく変化しておりますが、本系では、今まで以上に社会に貢献できる教育・研究を行うべく一層努力する所存でございます。同窓生の皆様には、引き続きご支援、ご指導を賜れば幸いです。末尾ながら、同窓生の皆様の益々のご活躍をお祈り申し上げます。

## 教職員紹介(平成29年11月現在)

### 【機械・システムデザインコース】

教	授	足立 忠晴, 河村 庄造, 柴田 隆行, 森 謙一郎
准	教 授	安部 洋平, 竹市 嘉紀
講	師	伊勢 智彦, 永井 萌土
助	教	阿部 史枝, 石井 陽介, 松原 真己

### 【材料・生産加工コース】

教	授	伊崎 昌伸, 戸高 義一, 福本 昌宏, 三浦 博己
准	教 授	小林 正和, 安井 利明, 横山 誠二
助	教	青葉 知弥, 足立 望, 笹野 順司, 山田 基宏

### 【システム制御・ロボットコース】

教	授	内山 直樹, 佐藤 海二, 章 忠, 寺嶋 一彦
准	教 授	阪口 龍彦, 佐野 滋則, 三好 孝典, 真下 智昭(兼務)
助	教	秋月 拓磨, 田崎 良佑

### 【環境・エネルギーコース】

教	授	飯田 明由, 中村 祐二, 柳田 秀記, 北村 健三(特命教授), 中川 勝文(特定教授)
准	教 授	鈴木 孝司, 関下 信正, 横山 博史
助	教	西川原 理仁, 松岡 常吉, 光石 暁彦 川村 洋介(特定助教)



## 退職教員より

### 「退職のご挨拶」

北村 健三

卒業生の皆様には日々の仕事や家庭生活に益々ご活躍のことと存じます。さて、私事で恐縮ですが、平成 29 年 3 月末をもちまして 38 年間勤めた本学を定年退職致しました。本学に助手として赴任したのは昭和 54 年 4 月で、本学 1 期生が卒研生として研究室に配属されたのとちょうど同じ時期でした。私の所属した熱工学研究室には、斉藤武先生、三田地紘史先生が居られました。斉藤先生は副学長職でお忙しいこともあって、大学院の博士課程を修了したばかりの私にも何人かの卒研生の研究指導が任されました。どのような研究テーマが良いか一生懸命考えましたが、悲しいかな当時の私は能力不足で良いテーマが思い浮かびません。仕方なしにひねり出したテーマで卒研をすることになりましたが、そのような状況でも、学生は朝早くから夜遅くまで実に熱心に実験に取り組んでくれました。本学創設当時の学生の研究にかける意欲や能力は、旧帝大の学生に比べても決して遜色が無かったように思います。そのような恵まれた環境で学究生活を送れることに無上の喜びを感じ、ついつい本学に長居をしてしまいました。それから三十数年の時が立ち、ようやく何を研究すべきか、何が世の中の役に立つ研究か、少しは分かる歳になって来ました。しかし、それが分かる頃には時すでに遅く、定年を迎えることとなりました。全く「少年老い易く、学成り難し」を地で行く学究生活でした。この 38 年の間に研究室から 120 名余りの卒業生が無事巣立って行きました。私の定年退職を機に、多くの卒業生が豊橋に集い、退職記念の会を催してくれました。学生時代は頼りなかった学生が、会社に入って数年も立たないうちに立派な技術者に育ち、就職先で有為な人材として活躍している様子を伺い知ることができ、教員冥利に尽きる一時を過ごさせて頂きました。多くの卒業生の方々に、貴重な時間と、手間を割いてお集まり頂いたことに、改めてこの場を借りまして、お礼を申し上げます。

さて、退職後の生活ですが、幸いにも本学の非常勤講師として採用され、大学院と学部 3 年次学生を対象に、

週 1 コマ「伝熱工学」関連の講義を引き続き行っています。その傍ら、非常勤の特命教授として、「高性能熱交換器の開発・評価」に関する研究を 1 年間の予定で実施しています。定年後も研究を続けることに内心忸怩たる思いも有りますが、研究とくに実験を色々工夫しながら行うことは楽しく、自分は根っからの実験屋だったと改めて感じているところです。しかし、あと少しで研究生生活も終え、新たな生活に踏み出す必要があります。与えられた時間に何をしようか色々と思いを巡らせてはいますが、まだこれといった良いアイデアは思い浮かびません。

最後になりましたが、非力な身でありながら、38 年もの間楽しく充実した大学生活を過ごせましたこと、心よりお礼申し上げます。卒業生の皆様方のご健康とご活躍をお祈りし、併せて我が豊橋技術科学大学の益々の発展を祈念し、退任のご挨拶とさせていただきます。長い間本当に有難うございました。



## 「創造の自由」

鈴木 新一

ロベール・ドアノーという有名なフランス人写真家がい  
ます。彼は、アルル国際写真フェスティバルに招待され  
た時、「言葉がイメージを押しつけている」と発言しまし  
た。フェスティバルでは、出展された写真に対して「この  
写真はこうだ」、「あの写真はああだ」という分析が数多く  
成されていました。ドアノーはそのことを快く思わず、「言  
葉がイメージを押しつけている」と発言したのです。ドア  
ノーは言います。「写真家には、深く考えもせず、『何かを  
したいという動物的な衝動』に駆られ、野蛮人の様にしゃ  
にむに働く時期がある。これがいわゆる『創造的な時期』  
だ。」

同じことは、技術者や研究者にも言えるように思います。  
20代、30代の若い技術者研究者にとって、『何かを生み  
出したい』という動物的な衝動に突き動かされて、しゃにむ  
に作り続ける行為は極めて重要であり、そのことなしに彼  
らが大成することは難しいでしょう。作るものがエンジン  
や建造物などの実物なのか、プログラムや論文などの著  
作物なのかの違いはあっても、何ものかを生み出そうとす  
る行為に変わりはありません。数限りない試行錯誤、駄作、  
凡作を繰り返し、それを通して彼らは変化し成長します。  
若い技術者や研究者にとって最も重要な行為でしょう。

最近十数年、産業界の人達から、PDCAという言葉  
をよく聞きます。仕事をする時には、まず計画(Plan)を立  
て、その計画を実行(Do)し、結果を検証(Check)し、次  
の行動(Action)をおこすということを意味しています。こ  
れ自体は、決して間違った考え方ではないのでしょう。し  
かし、実際にPDCAをやっている人達からは、「計画通  
りやったのに、一向に成果が上がらない」、「一体何をやっ

ているのか分からない」、「会議のための資料やスライドの  
山が残っただけだ」という声を頻繁に聞きます。どうして  
そうなるのでしょうか？

前述のように、写真に対する多くの分析を聞いた時、  
ドアノーは、「言葉がイメージを押しつけている」と発言  
しました。それと同じようにPDCAの話の聞くと、私は、「計  
画が創造を圧迫している」と感じます。

創造の最初の段階は非常にデリケートであり、「言葉  
にならない言葉」、「イメージにならないイメージ」で手探  
りします。そこでは、創造に対する動物的な衝動が最も重  
要な原動力であり、その動物的な衝動が十分に活動できる  
心理的な自由が必要です。そのためこの段階において、  
PDCAのような考えが入り込んでくると、それは創造への  
衝動を縛り付けてしまい、自由を奪うこととなります。創  
造的仕事に携わろうとする者は、この点を十分に認識す  
る必要があります。創造的過程を外から与えられた形式  
に押し込めてしまうと、動物的な衝動はやがて失われ、後  
には計画の死骸だけが残ります。

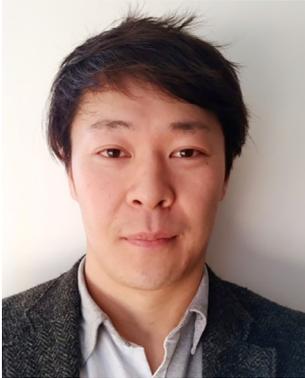
十数年前、実務訓練の視察で訪れた大手企業の研究  
所の所長が、「研究者というものは、管理した方が良いの  
か、自由にさせた方が成果が挙がるのか、良く分からない  
」と言っていました。本音だろうと思います。前述の  
PDCAに対する意見は、そのことを良く物語っています。  
20代、30代の卒業生諸君には、自分の中にある「創造  
への動物的な衝動」をしっかり意識して欲しいと思います。  
また、40代、50代で既に管理職に就いているOB諸君には、  
若い人たちに創造の自由を与えて欲しいと思います。創  
造は管理に勝るのだから。



金沢で開催された国際会議にて(2017年11月)。  
右は卒業生のMohammad Amro Jamal Aldibaja君(金沢大学)。



## 新任教員より



機械工学系 助教 足立 望

2017年3月1日付けで機械工学系 材料・生産加工コースに助教として着任しました足立望と申します。出身は宮城県の仙台市で、宮城工業高等専門学校を経て本学に3年次編入し、その後学部から博士号取得まで7年間本学の学生として過ごさせて頂きました。その後京都大学 原子炉実験所に研究員として勤務した後、本学に教員として戻って来ることが出来、お世話になった母校で、教員として貢献できることに日々喜びを感じながら学生時代には、梅本実教授、戸高義一教授のもと、巨大ひずみ加工によって組織を制御した金属材料の力学特性に関する研究を行っていました。近年の塑性加工プロセスの進展によって、一般的なプロセスでは不可能であった巨大ひずみを金属材料に付与することが可能となりました。それに伴って形成される金属は、従来技術では達成できない微細な組織を有し、非常に高強度でありながら、比較的高い延性も保った将来有望な材料として注目されています。産業利用への展開のため、この特異な力学特性の発現機構の解明に向けて、研究を行ってきました。現在は、金属材料中に存在する格子欠陥を利用したトライボロジー特性の制御に関する研究に従事しております。

住み慣れた豊橋での生活は心地よい物ですが、教員としては、着任して半年余り、至らない点は多々あります。本学の発展に貢献出来るよう精進して参ります。今後ともご指導ご鞭撻の程、宜しくお願い致します。



機械工学系 助教 阿部 史枝

2017年4月に機械工学系に助教として着任いたしました。出身は四国の徳島県です。「女の子だから〇〇しなさい」と言われるのが大嫌いで、親の反対を押し切って徳島大学の機械工学科に入学しました。徳島大学で修士まで学び、大阪大学基礎工学研究科 小坂田宏造教授の指導の下、平成9年に博士(工学)(学位論文名「金属のレーザープロトタイプングに関する基礎研究」)を取得しました。平成8年～12年度の間、学振特別研究員として大阪大学で研究を続けながら、結婚、第一子に恵まれました。平成13年に夫の転勤に伴い名古屋に転居し、産総研中部センターにてNEDOフェローとして研究(テーマは木材)を続けていましたが、第二子出産後、体調を崩し研究職から離れることになりました。それから12年を経て、初めて助教として就職することが出来て、再び研究の場に戻ることが出来てうれしい驚きです。

不安がいっぱいの中、着任して半年が経ちました。通勤にも慣れてきましたが、12年の間に様々な事が変わり、進んでいるので、少しでも追いつけるように、日々、勉強中です。立派なおばちゃんなのに、無知で未熟な私をあたたくご指導して下さる教員や事務の皆様には心より御礼申し上げます。少しでも本学の研究・教育に貢献できるように努力を続けますので、皆様のご指導、ご鞭撻のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。



機械工学系 教授 佐藤 海二

2017年4月に機械工学系システム制御・ロボットコースに教授として着任しました佐藤海二です。専門は精密メカトロニクスで、産業機械への応用を念頭に、メカニズムやアクチュエータ、制御法といった要素技術、それらの統合化技術を研究対象としています。

メカトロニクスの性能は、機構・アクチュエータと計測・制御の総合力によって決まりますが、どのような特性が欲しいか?によって両者の重みが異なります。そこで特定の性能を追求した尖がった機構・アクチュエータを設計・実現し、それによって生じる問題を計測制御で解決し、これまでになかった高い性能、ユニークな特徴を

実現する研究に取り組んできました。

前の勤務先では、機械要素に新たにサーボ系を組み込み機構特性を可変にすることで高速高精度位置決め・超精密運動制御を実現する研究や、最大加速度、最大速度がそれぞれ、100G、10m/sを超える超高加速・高速リニアモータとそ  
の高精度制御、製造が簡単な静電アクチュエータと高精度制御、製作容易な部品から構成される静電力を用いたマイクロ光スイッチなどの研究を行い、サーボ系を必要としない液体の表面張力を利用したマイクロ部品のセルフアライメントといった研究も行ってきました。

現在は、主に高い利便性と高性能を追求する制御、機構・アクチュエータの研究に取り組み、精密メカトロニクスをより身近な存在として活用できるようにしたいと考えています。よろしく願いいたします。

## 機能材料・構造システム研究室(トライボロジー研究室)の近況報告

久保田 秋穂

本学卒業生並びに修了生の皆様方におかれましては  
お元気でご活躍のことと存じます。

現在、機能材料・構造システム研究室(トライボロジー  
研究室)は竹市嘉紀准教授の下、学生13名となってい  
ます。後期からはマレーシアからの留学生が研究生とし  
て加わり、今まで以上に研究に励んでおります。

本研究室では固体潤滑を中心に、より優れた耐摩耗性  
やしゅう動特性を有する材料の研究開発や、摩擦・摩耗  
のメカニズムを解明することを目標に研究を行っており、  
研究内容としては4つのテーマに分けられます。1つ目  
は自動車用ボールジョイントの性能向上を目的とした研究  
です。ボールジョイントは主に自動車のハンドルからの入  
力を駆動部へと伝達する操舵装置などに使用される関節  
の役割を果たす継手部品です。本研究ではボールジョイ  
ントの最適な設計のため、ボールジョイント内部のグリー  
スの詳細な潤滑状態について調べています。2つ目は低  
摩擦材料として高負荷しゅう動部へ適用できるフェノー  
ール樹脂成形材料の開発です。フェノール樹脂は熱硬化性  
樹脂の一種で、自動車のブレーキライニングなどに使用  
されている材料ですが、低摩擦を目的とするしゅう動部  
への適用例、研究報告は多くありません。本研究ではフェ  
ノール樹脂成形材料に配合している充填剤や添加剤が摩  
擦摩耗特性にどのような影響を及ぼすかについて研究を  
行っています。3つ目は高温雰囲気下で固体潤滑剤とし

て使用できるモリブデン酸塩の潤滑メカニズムの解明を目  
的とした研究です。潤滑剤の使用環境が500℃以上とな  
る環境では、二硫化モリブデンのような固体潤滑剤は潤  
滑性を失ってしまいます。このような高温雰囲気下での  
摩擦摩耗特性を向上させる手法の1つに金属酸化物を  
使用する方法があり、軟質でせん断強さが低いことから  
優れた潤滑性を持ちます。本研究ではモリブデン酸銅の  
潤滑機構を明らかにし、トライボロジー学会から論文賞を  
受賞しました。4つ目は固体潤滑材料のPTFEについて、  
その潤滑性能を最大限に発現させることを目標とした研  
究です。PTFEは自己潤滑性および低い摩擦係数を示  
す特性から、しゅう動部材や固体潤滑剤などのしゅう動  
材料として広く用いられています。PTFEは摩擦によって  
相手金属をフッ化させることがすでにわかっていますが、  
この反応プロセスや摩擦摩耗特性への影響は明らかでは  
ないため、本研究ではこれらのメカニズムの解明を目的に  
研究を行っています。

また研究活動だけでなく、新入生歓迎会や打ち上げも  
頻繁に行っています。そのためか本研究室は先輩後輩間  
の距離も近く、研究や学業などについて意見交換を行う  
ことも多いです。

最後になりましたが、卒業生・修了生の皆様のご健勝  
とご活躍をお祈り申し上げます。



## 薄膜材料研究室の近況報告

増井 健太

卒業生・修了生の皆様、いかがお過ごしでしょうか。皆様におかれましては、ますますご健勝のことと存じます。今年度の薄膜材料研究室の近況についてご報告申し上げます。

現在、伊崎昌伸教授、横山誠二准教授、笹野順司助教の教員 3 名の下、研究員 1 名、博士後期課程 2 名、博士前期課程 17 名、学部 9 名で日々の研究活動に励んでおります。学生の中にはマレーシアやミャンマーからの留学生に加え、今年度の秋季からは国際ツイニングプログラムとして、中国からの留学生を 2 人メンバーとして迎えており、研究室内において非常に国際色豊かな環境となっております。

現在、当研究室で進めている内容としましては、資源・エネルギーの有効利用、再生エネルギー源の創出を目的とした酸化物半導体薄膜形成ならびに太陽電池に関する研究。鉄鋼材に関しては、副産物であるダスト、スラグのリサイクルに関するものなど、多岐にわたる分野で様々な研究を行っております。

それらの研究発表の場として、電気通信大学と共催の『The Irigo Conference 2017』、高専と連携した太陽

電池合同シンポジウムなどでポスター発表・講演を精力的に多数しております。最近では、太陽光発電国際会議 (PVSEC) にも参加をするなど、国内外への積極的な研究活動の発表を行っております。

研究活動以外の行事としては、新入生を迎え入れての歓迎会や、卒業研究発表後のお疲れ様会や忘年会を例年行っており、メンバー会の距離も近く、輪講発表などの場でも先輩後輩を感じさせない積極的な意見交換が行われています。また、毎年冬に行われているスキー旅行や大学主催の球技大会などにも積極的に参加し、例年優秀な成績を収めております。

論文等の研究成果を含め、研究室の活動についてはホームページ (<http://tf.me.tut.ac.jp/>) に随時記載しておりますので、ぜひご覧ください。

ご多用とは存じますが、豊橋方面にお越しになる機会がございましたら、研究室にお気軽にお立ち寄りください。研究室一同、心からお待ちしております。

最後となりましたが、卒業生・修了生の皆様の益々のご活躍を祈念しますと共に、今後とも研究室にご支援くださいますようお願い申し上げます。



## ロボティクス・メカトロニクス研究室の近況報告

吉田 慧

卒業生・修了生の皆様におかれましては、ますますご健勝のことと存じます。

現在ロボティクス・メカトロニクス研究室では佐藤海二教授、佐野滋則准教授の下、社会人博士 1 名、修士 2 年 2 名、修士 1 年 6 名(うち 1 名は留学生)、学部 4 年 8 名が日々様々な研究に励んでおります。

ここ数年を通して、本研究室では大きな変化がありました。まず 2009 年度をもって高木章二教授がご退職されました。また 2015 年度に内山直樹先生が教授に昇進、本学システム工学研究室(旧清水研)へ異動されました。2017 年度春には東京工業大学より佐藤海二教授が本研究室に着任されました。また秋からは留学生 1 名、社会人博士 1 名を新たに迎え、より一層の活気が感じられるようになりました。

現在、本研究室では機械・アクチュエータ技術と計測制御技術を融合し、実用性を重視した高い利便性と高性能を両立する精密メカトロニクス・ロボット、移動ロボット、介護ロボット、およびその要素技術の研究に取り組んでいます。

精密メカトロニクス分野では、感温磁性体とレーザー、永久磁石を組み合わせたアクチュエータを利用した小型マニピュレータシステムの開発を行っています。感温磁性体は温度変化によって磁気特性が変化する材料で、こ

れを用いることでコイルや配線を不要とする簡易な構造のアクチュエータを構成することが可能です。この簡易な構造は小型化に適しており、これを活かすことで小型マニピュレータシステムの実現を目指しています。

また、介護ロボット分野では、体重支持を主眼に置いたアシストスーツの開発を行っています。開発当初は空気圧サーボをアクチュエータとして使用したアシストスーツでしたが、2016 年度からはモータとボールねじを組み合わせたものへと変更されました。また立ち上がり動作を検出し、体重支持を行う制御系設計も並行して行われています。

なお、工作機械や 4 ロータヘリコプタの研究はシステム工学研究室で引き続き行われています。

研究室内では研究活動だけでなく、新入生歓迎会や忘年会、追いコンなどの研究室行事を通してメンバー全員で盛り上がり、研究室全体の結束を固めています。日々様子としては和気藹々としつつも真剣に、緊張感をもって研究活動や学業に励んでおります。しかし現状に満足せず、更なる向上心をもって今後もより一層の努力と研鑽に励む所存です。

最後になりましたが、卒業生・修了生の皆様の益々のご活躍をお祈り申し上げます。



## 省エネルギー工学研究室の近況報告

判澤 拓実

本学卒業生並びに修了生の皆様方におかれましてはお元気でご活躍のことと存じます。今年度の省エネルギー工学研究室の近況についてご報告申し上げます。現在、本研究室では、柳田秀記教授、横山博史准教授、西川原理仁助教、村井麻葉事務補佐員、学生 24 名（博士前期課程 13 名、学部生 11 名）の総勢 28 名となっております。今年度は、本研究室にとって新たな変化の年となりました。今年度の春より、横山博史准教授が着任されたことで、研究の分野がより一層広くなり、今まで未知であった分野の研究に励めるようになりました。

現在本研究室で進められている研究内容として大きく 3 つに分けられます。まず 1 つ目は流体を利用した機械的動力を取り出すフルードパワーシステムに関連する研究になります。これは、電気流体力学的 (EHD) 流れの基礎的特性を実験と数値解析から明らかにし、ポンプなどの各用途に適した電極や流路の形状を見出す EHD ポンプによる研究、潤滑油膜の動特性を考慮した数学モデルの精度の改良を行うとともに提案した数学モデルを各種機械システムに適応する研究、潤滑油中の浄化速度を向上させるため電荷注入を搭載した静電フィルタの研究、油中の粒子除去に適した逆洗式フィルタの改良研究と幅広くおこなっております。2 つ目は空力音発生機構

の解明・制御に関する研究になります。これは、輸送機関やファンなどの流体機器からは渦の変形などの流れの非定常現象により空力騒音が発生するため、こうした空力騒音の発生機構の解明および低減手法の確立を目指し、風洞実験および流れと音の直接計算を両輪とし研究をおこなっております。3 つ目は流体の熱音響効果や相変化を利用した熱エネルギー機器に関する研究になります。これは、熱エネルギーと音響エネルギーを交換する熱音響現象が利用されている熱音響機器内部の流動・音場を明らかにし性能向上を目指す研究、電力なしで動作でき、配置の自由度が高い熱輸送デバイスであるループヒートパイプ (LHP) に注目し、実験および計算の両面より LHP の技術確立を目指す研究をおこなっております。

研究活動だけでなく新入生歓迎会や打ち上げ、研究・旅行等の恒例行事も活発に行うことで研究室内の交流を密にしております。今年の研究室旅行は滋賀へ行きました。琵琶湖や陶芸などを楽しみ、普段とは異なる環境のもとりフレッシュできました。

最後となりましたが、卒業生・修了生の皆様の益々のご活躍を祈念しますと共に、今後とも研究室にご支援下さいますようお願い申し上げます。



### 学内近況報告

准教授 河野 剛士

修了生、卒業生の皆様におかれましては、ますますご活躍のことと思います。今年度も4月にフレッシュな学生達が電気・電子情報工学系に入学・編入してきております。今年は、1年次の入学者数が5名、3年次編入学者数が82名でありました。最初の数ヶ月はやはり不慣れな環境のせいか、私自身授業を担当しても少し学生等のごちなさを感じましたが、数ヶ月も経てば顔つきが変わり“本系の学生”になりつつあるのが感じ取れました。3年生におきましては来年の4月から研究室配属になります。大いに活躍して頂き本系を更に盛り上げる人材になって頂きたいと期待しています。

さて、昨年度に受審したJABEEですが、3月に認定を可とする旨、連絡が届きました。これにより、私たち系の技術者教育プログラムが今後6年間認定されたことになりました。今まで以上に教職員一同で本系の教育の質保証に努めていく所存であります。

研究面におきましては、情報通信システムコース教授の大平孝先生が「共鳴Q理論の研究」で平成29年度文部科学大臣表彰科学技術賞（研究部門）を受賞されました。本成果は、従来設計が困難とされていた大電力電界共鳴ワイヤレス給電システムの構築を可能とするもので、電気自動車の基盤交通インフラとなる「電化高速道路」の実現に大きく寄与すると期待されています。

さて昨年度に引き続き数名の先生方の異動がありましたのでご連絡します。まず、平成29年3月31日付けで、村上裕二先生が集積電子システムコースの准教授から静岡理工科大学へ教授として転出されました。一方で、平成29年4月1日付けで石川靖彦先生が集積電子システムコースの教授に、本学国際協力センターの穂積直裕先生が機能電気システムコースの教授に、滝川修先生が本系特任教授にそれぞれ就任されています。また、4月にLee Youna先生が集積電子システムコースの助手に就任、10月に川島朋裕先生が機能電気システムコースの

助教に昇進されています。高専・両技科大間教員交流制度として、谷本壮先生が高知工業高等専門学校から赴任されています。

以上、電気・電子情報工学系の近況報告をさせていただきました。今後とも、本系教職員一同今まで以上に精進し、社会に貢献できる教育・研究活動を引き続き行っていきますので、同窓生の皆様には引き続きご支援、ご指導を賜れば幸いです。

## 教職員紹介(平成29年12月現在)

### 【材料エレクトロニクス分野】

教 授	福田 光男, 松田 厚範, 内田 裕久
准 教 授	服部 敏明, 中村 雄一, 石山 武, Lim Pang Boey* <sup>1</sup> , 高木 宏幸
助 教	河村 剛, 石井 佑弥, 後藤 太一, 加藤 亮* <sup>2</sup>

### 【機能電気システム分野】

教 授	櫻井 庸司, 穂積 直裕, 滝川 浩史
准 教 授	稲田 亮史, 須田 善行, 村上 義信
助 教	東城 友都, 針谷 達, 谷本 壮, 川島 朋裕
技術専門職員	日比 美彦

### 【集積電子システム分野】

教 授	若原 昭浩, 澤田 和明, 石川 靖彦
准 教 授	河野 剛士, 岡田 浩* <sup>3</sup> , 関口 寛人
講 師	高橋 一浩
助 教	秋田 一平, 赤井 大輔* <sup>3</sup> , 山根 啓輔, 岩田 達哉
助 手	李 宥奈
技術専門職員	飛沢 健

### 【情報通信システム分野】

教 授	大平 孝, 市川 周一, 上原 秀幸
准 教 授	田村 昌也, 竹内 啓悟
助 教	藤枝 直輝, 宮路 祐一, 坂井 尚貴

\* 1 国際教育センター, \* 2 研究基盤センター, \* 3 エレクトロニクス先端融合研究所

## カルフォルニア大学ロサンゼルス校滞在報告

電気・電子情報工学系 集積電子システム分野 助教 秋田 一平

2016年5月から2017年3月末まで米カルフォルニア大学ロサンゼルス校 (University of California, Los Angeles: UCLA) に客員研究員として滞在しておりましたので、本紙面をお借りしてご報告させていただきます。この機会は、本学の若手研究者育成プログラム及び UCLA の研究プロジェクトよりその滞在費の一部等を支援頂くことで実現しました。



UCLA は、御存知の通りカルフォルニア大学バークレー校 (UCB)、サンフランシスコ校 (UCF) に次ぐ第3の UC と、歴史ある名門校として知られています。UCLA は、ロサンゼルス市のウェストウッド (ビバリーヒルズとサンタモニカの間くらい) という、非常に治安のよいエリアにあり、この周辺においては、深夜に女性が一人で犬の散歩をしている姿を見かけることも珍しく無いほどです。UCLA エリア内に警察署があり、周辺を24時間体制でパトロールしていることが功を奏しているのではないかと思います。

滞在中は Dejan Markovic 教授のグループに所属し、研究テーマとしては、脳信号計測に向けた埋込みデバイス・回路設計に関して、主に脳活動の異常に起因する疾患 (心的外傷後ストレス障害: PTSD やパーキンソン病など) に対して異常信号を検出してリアルタイムに電気刺激を与え治療するためのデバイス開発に関するもので、半分は先方のプロジェクトの手伝いを、もう半分は新規テーマの立ち上げを行ってきました。詳細はあまり述べることはできませんが、脳神経科学分野へのエレクトロニクスの貢献という観点でアメリカは非常に先進的であることを肌で感じることができ、また、私自身の今後研究テーマ設定の方向性を決めるとも良いきっかけになったと考えています。私が所属した Electrical Engineering は比較的集積回路設計・デバイスに関する研究者比率が高

く、世界的に著名な教授が多く在籍している学科であり、多くの優秀な人材を排出していることで有名です。特に、通信用 LSI などで世界的に大きなシェアを有している米 Broadcom の設立者、ヘンリ・サミュエリ氏は元々同学科の教授で、彼の教え子と共に同社を設立したことで有名です (Broadcom は毎年、同学科の Ph.D. 学生に対して授業料と毎月の生活費をサポートする給付型の競争的奨学金を数件提供しており、リクルーティングと社会貢献を両立しているようです)。また、各学生のアドバイザー/所属グループは明確ですが、学生の居室は各研究グループで区切られること無く同じ空間であったため、グループの違いに関係なく議論出来る点はとても創造的である印象でした。

さて、今回の渡米・長期滞在に際して、研究実施や人的ネットワークの拡大などの目的はもちろんありましたが、研究者としてのマネージメントについても学びたいという狙いもありました。実際に現地学生達と同じ環境で研究を行い、彼らと議論し、また、教授とも日米の研究環境



UCLA 構内にて  
(正面は Ronald Reagan UCLA Medical Center)

の違い等について意見交換もしました。研究者や学生の  
日米の環境の違いについては各メディアでも議論になる  
ことも多々ありますが、個人的には分野によって異なると思  
っています。少なくとも我々の研究分野では、基本的に  
博士学生の授業料（年間数100万円）と生活費（\$2,000  
程度/月）は教授のプロジェクトの（直接）経費から支  
払われ、学生の生活面での心配事は大きく軽減されてい  
るのは事実です（とは言え、UCLA 周辺はルームシェア  
しても少なくとも \$1,000 は必要ですが）。ただし、修士学  
生のうち教授が受入れを認めた10%程度の学生しか研究  
室には所属できない点に注意しなければなりません。すな  
わち、教員がグループに加わる学生を厳選している点が  
日本と全く逆の構図であり、日本では学生が研究室（教員）  
を選んで全員が研究室配属される仕組みであることを伝  
えると、教授が非常に驚いていたのが印象的でした。他  
にも、博士学生になるための試験のハードルの高さ、修  
士課程の講義の高度さ、教育研究に関する UCLA EE の  
戦略や日本とのルールの差、など様々な違いを知ることが  
できたと思います。また、こういったシステムやルールは  
大学、分野によって様々であるそうで、上記が一般的で  
あるという訳では無いようです。制度上、日本で実施して

みるというのは現状不可能ですが今後何かしら参考に出  
来ればと思います。

最後に、ほぼ1年間の在外機会を与えてくださった本  
学執行部、2系教職員、並びに国際課国際企画係の皆  
様に心より感謝申し上げます。



映画「LA LA LAND」の舞台にもなった Grand Central Market では安くおいしいメキシカンが食べられます

## フォトニクス研究室の近況報告

博士前期課程2年 大森 啓翔

卒業生・修了生の皆様におかれましては、益々ご健勝のことと存じます。フォトニクスグループの近況を報告いたします。

本研究グループは研究室発足から14年目を迎え、現在、福田光男教授、石山武准教授、石井佑弥助教、杉浦奈保子秘書、および学生（博士後期課程1名、博士前期課程16名、学部4名）で構成されています。

本研究グループでは、表面プラズモンを利用した光電子融合回路の開発、半導体ナノ構造を利用した発光材料の開発、透明導電膜を利用した新規光デバイスの開発、高分子ナノファイバを用いた新規有機デバイスの開発など光に関連した研究を行っています。最近では表面プラズモン論理回路の論文 (Scientific Reports, vol. 6, 24546 (2016)) が日本光学会2016年日本の光学研究(30編)に選出されたり、国際会議 European Material Research Society (EMRS) 2017 Fall Meeting において発表した論文が The Best Student Presentation Award を受賞するなど、国内外から高い評価を頂いております。これも諸先輩方のこれまでの功績の賜物であると感謝致しております。

研究グループの行事では、新入生歓迎会、材料エレクトロニクスコースの合同遠足や研究室の忘年会などを行い、一同の親睦を深めています。今年度の研究室旅行では竜ヶ岩洞の観光と浜名湖岸でのバーベキュー

を行いました。自然の中に身を置くことで心身ともにリフレッシュでき、先輩と後輩、先生と学生という垣根を越えて大いに盛り上がりました。これまでの研究室の活動内容につきましては、ウェブサイト (<http://www.photon.ee.tut.ac.jp/index.html>) にて公開されておりますので、お時間のあるときにご覧いただけますと幸いです。

卒業生・修了生の皆様の積み重ねが基盤となり、現在充実した研究生活を過ごしているものと考えております。心から感謝致しますとともに、より一層、この研究室が活躍できますよう日々努めて参りたいと存じます。

さて、卒業生・修了生の皆様にお知らせがあります。福田先生は来年度3月(平成31年3月)に、本学での教育・研究生活を終えられ定年を迎えられます。研究室の卒業生・修了生、在学生一同、先生の長年にわたるご指導に心より感謝を申し上げる次第です。

卒業生、修了生の皆様方におかれましては大変お忙しいことと存じますが、豊橋へお越しになる機会がございましたら研究室にお立ち寄りください。研究室一同、心よりお待ち申し上げます。また、その際に、在学中や卒業、修了後の貴重なお話を聞かせ頂ければ嬉しく思います。

末筆ながら、諸先輩方のさらなるご活躍とご健勝を心よりお祈り申し上げます。



## 専用計算システム研究室の近況報告

本郷 誠人

本学卒業生並びに修了生の皆様方におかれましてはますますのご清祥のこととお喜び申し上げます。本稿では専用計算システム研究室の近況についてご報告いたします。

現在、本研究室では市川周一教授と藤枝直輝助教の下、博士前期課程学生 8 名および学部生 5 名が在籍し、研究活動を行っております。本研究室の主な研究テーマは「演算の高速化」と「セキュアシステム」の 2 点です。「演算の高速化」については、再構成可能論理回路の一種である FPGA (Field Programmable Gate Array) を用いた専用回路の設計・実装・評価を行っています。画像処理などの特定の処理に特化した計算機を設計することで、ソフトウェアを用いた処理と比較して大幅な高速化が期待されます。また、多数のコアを備える Xeon Phi を用いた並列コンピューティングの研究なども扱っており、ハードウェアとソフトウェアの両面から演算の高速化を目指しています。「セキュアシステム」については、ソフトウェアから解析が困難なハードウェアを生成する研究や、システムの耐タンパー性(ソフトウェアを解析・盗用・改ざんなどから防御する能力)を高めるセキュアプロセッサに関

する研究、暗号回路や乱数生成回路に関する研究を行っています。組込みシステムでは十分なシステムの性能を確保しつつ、ハードウェア資源量などのコストを最小限に抑えることが求められます。そのため本研究室では、主にコストとセキュリティの両立を目指して研究に取り組んでいます。

本研究室では 9 月から 10 月にかけて、F 棟 5 階から C1 棟 3 階へ研究室の引越しを行いました。本研究室はもともと旧知識情報工学系に所属していたため、今まで電気・電子情報工学系の研究室として唯一 F 棟で活動しておりました。このこともあって同系の研究室の中ではどこか独立した雰囲気がありましたが、この度、同系の中でも特に情報通信システム分野の研究室が集まる C 棟群の 3 階へ移転することとなり、今後ますます他の研究室との交流が深まることを楽しみにしております。

最後になりますが、卒業生並びに修了生の皆様方のご活躍、ご発展を心よりお祈り申し上げます。ご多忙とは存じますが、もし豊橋へ来られる機会がありましたらぜひお気軽にお立ち寄りください。研究室一同、心よりお待ちしております。



## 誘電・絶縁システム工学研究室の近況報告

博士前期課程2年 二見 啓之

卒業生・修了生の皆様方におかれましては、ますますご健勝のことと存じます。現在、誘電・絶縁システム工学研究室は穂積直裕教授、村上義信准教授、川島朋裕助教のもと、博士2名、修士18名、学部8名の計28名で日々研究に励んでいます。内6名は留学生であり、英語での討論や異文化交流の機会も増えております。

研究分野では、誘電・絶縁材料の高電界電気現象の解明を基盤とし、近年は培われた計測・診断技術を活用してヒトの皮膚内部の構造を非侵襲で観測する技術や半導体デバイスの非破壊故障解析など、医療・生物・電力・環境・自動車などの幅広い分野への応用を目指しています。

研究室の行事としては、夏休みのゼミ合宿、忘年会、新年会などが行われ、研究室一同参加で親睦を深めています。平成29年度は第1期生がめでたく還暦を迎えられたため、歴代の小崎・長尾・穂積・村上研究室の卒業生と修了生をお招きして還暦祝いを行いました。平成29年度以降からは毎年還暦を迎えられる卒業生もしくは修了生がおられるため、還暦祝いを兼ねた研究室同窓会を毎年開催することで同窓生の交流の場を増やし、研究

室同窓会の活性化を図りたいと考えております。在学生一同、毎年の開催・運営に努力していく所存です。ご多忙と存じますが、豊橋方面に来られる機会がありましたらお気軽に研究室にお立ち寄り下さい。研究室一同、心から歓迎いたします。

最後になりましたが、諸先輩方のさらなるご活躍とご健康を心よりお祈りしております。





### 学内近況報告

系長 石田 好輝

同窓生の方々におかれましてはご健勝のことと思います。また、いつも情報・知能工学系へ多大のご支援を頂き誠にありがとうございます。

日本を取り巻く環境、大学を取り巻く環境もかなり激しく変化しております。今年度の情報・知能工学系およびそれを取り巻く環境を1文字で表すとすると「転」ではないかと思えます。後で教員の近況でも述べますが、今年度は多くの先生が転出され、また新任の先生も転入されてきました。GAC学生も本系に7名ほど入り、人や事の国際化が進んでおります。GACの学生で海外から日本へ来た学生は、日本での実務訓練、逆に日本のGAC学生は海外での実務訓練が課せられる予定であり、いま海外実務訓練先や日本での実務訓練先の開拓が重要な課題です。

諸先輩がたには、平素よりお世話になっておりますが、また実務訓練先としてお願いにあがった際にはどうぞ宜しく願い申し上げます。

JABEEの受審は、おかげさまで成功裡におわり、あと6年は認定が認められることとなりました。その際、教員のネットワークが十分でないとの指摘を受け、それを受けて教員ネットワーク委員会なるものを系に設けました。その甲斐あって、多くの交流会が系内で行われるようになり、教員間の会話も、教員の笑顔も増えたように感じます。つい昨日も系の忘年会を兼ねた交流会が開催され、新任教員を含む多くの先生がたと「お電車」（「おでん」と「でんしゃ」がかかっている）を楽しみました。

肝心の教員の近況をお伝えしますと、堀川順生先生が退職、小林良太郎先生、加藤博明先生、小林暁雄先生、立間淳司先生、三崎幸典先生、山本一公先生、神納貴生先生が転出されました。堀川先生が最終講義「聴覚の研究に携わって」で残された名言は「人間の脳は抑制している」でした。

また新任の先生としては、長谷川孔明先生、上田祥代先生、松井淑恵先生が着任され、北崎充晃先生は教授となりました。

AI、Big Data、IoTなどパラダイム転換点ですので、情報・知能工学系もいっそう精進していく所存です。

諸先輩がた、同窓生の皆様におかれましても、お身体をいとおられると同時に今まで同様、あたたかく今後の情報・知能工学系を見守って頂ければ幸甚です。

## 教職員一覧及び学生現員(平成29年11月現在)

### 【計算機数理科学分野 (Computer & Mathematical Sciences)】

氏名	職名	専門分野
石田 好輝	教授	知能システム学, 統合AI
藤戸 敏弘	教授	計算機科学
河合 和久	准教授	コンピュータサイエンス
栗田 典之	准教授	量子生物学, 計算科学
後藤 仁志	准教授	計算化学, ハイパフォーマンスコンピューティング
相田 慎	助教	計算量理論
木村 慧	助教	離散最適化, アルゴリズム
原田 耕治	助教	免疫システム科学, 複雑系

### 【データ情報学分野 (Data Informatics)】

氏名	職名	専門分野
青野 雅樹	教授	情報検索, データマイニング
梅村 恭司	教授	情報工学
増山 繁	教授	自然言語処理, Webマイニング, アルゴリズム工学
秋葉 友良	准教授	知能情報学
渡辺 一帆	講師	統計的学習理論, 機械学習
吉田 光男	助教	ウェブ工学, 自然言語処理
井佐原 均	教授	言語情報学 (情報メディア基盤センター 兼任)
土屋 雅稔	准教授	自然言語処理 (情報メディア基盤センター 兼任)

### 【ヒューマン・ブレイン情報学分野 (Human & Brain Informatics)】

氏名	職名	専門分野
高橋 由雅	教授	分子情報工学
中内 茂樹	教授	知覚認知情報学
北崎 充晃	教授	心理物理学, 認知神経学
福村 直博	准教授	計算論的神経科学
村越 一支	准教授	計算知能
松井 淑恵	准教授	聴覚心理学
桂樹 哲雄	助教	分子情報工学, 情報生命学
杉本 俊二	助教	神経科学
東 広志	助教	生体信号処理
上田 祥代	助教	知覚心理学
鯉田 孝和	准教授	視覚神経科学 (エレクトロニクス先端融合研究所 兼任)
南 哲人	准教授	認知神経科学 (エレクトロニクス先端融合研究所 兼任)

### 【メディア・ロボット情報学分野 (Media Informatics & Robotics)】

氏名	職名	専門分野
岡田美智男	教授	認知科学・社会的ロボティクス
栗山 繁	教授	画像/映像/CG関連メディア
三浦 純	教授	知能ロボティクス
金澤 靖	准教授	コンピュータビジョン, 画像処理
菅谷 保之	准教授	コンピュータビジョン
大村 廉	講師	ユビキタス・コンピューティング, システムソフトウェア
大石 修士	助教	コンピュータビジョン
長谷川孔明	助教	ヒューマンエージェントインタラクション

#### 【事務関係】

事務職員：加藤 恵子 (C棟事務室)  
 宮崎 早苗, 山本 沙愛, 滝川 陽子 (F棟事務室)  
 技術職員：宮脇 治雄, 片岡 嘉孝, 小西 和孝

#### 【学生現員】

学 部：1年次 19名, 2年次 11名, 3年次 92名, 4年次 106名  
 博士前期：1年次 95名, 2年次 97名  
 博士後期：18名



## 退職教員より

### 「研究生生活を振り返って」

情報・知能工学系 名誉教授 堀川 順生

1998年に本学に赴任し、19年間お世話になりました。本学に赴任する前は東京医科歯科大学難治疾患研究所で19年間、動物を使った聴覚の研究を行っていました。医学部から工学部へ来たきっかけは、旧知識情報工学系の教授公募に応募したことでした。もともとは大阪大学基礎工学部出身で、研究ではミニコンピュータを使用していたので、工学部での教育・研究には特に問題はありませんでした。赴任後、防音室や計測機器などの実験用設備の立ち上げに数年間かかりました。この間は難治疾患研究所と共同研究を行い、学生を派遣して実験を行ったりしていました。

設備が整ってからは、本学での研究が順調に進み始めました。動物実験と並行して、人の脳波の計測も始めました。最近、新田恒雄本学名誉教授との共同研究で、言葉を脳波から読み取ることができるような結果が出てきました。

本学に赴任して数年後から大学の教育改革が始まり、

十年以上にかけて学内再編や法人化などの対策に追われました。しかし、この改革は何であったのかと思われるほど、大学の教育・研究環境は変わっていません。これらに費やしたエネルギーが研究につき込める環境であったらと思ったりもします。

本年度は情報・知能工学系 JABEE 対策委員長と国際会議の大会長が重なり、大変忙しい年でした。JABEE 実地審査は11月初めに行われ、無事終了しました。国際会議は12月中旬に田原市の伊良湖シーパーク&スパホテルで開催しました。会議内容や会場などについて参加者からの評判がよく、成功でした。

総合的に本学での教育・研究生生活は楽しいものでした。いくつかの研究は未完成となりましたが、退職後も時間をかけてまとめたいと思っています。最後になりましたが、これまでにお世話になった方々に感謝申し上げます。また、豊橋技術科学大学のますますのご発展をお祈り致します。





## 新任教員より

情報・知能工学系 助教 上田 祥代



2017年10月1日付で情報・知能工学系の助教に着任いたしました、上田祥代と申します。出身は富山県で、学部から修士課程までお茶の水女子大学で学び、修了後は民間企業でシステムエンジニアとして勤務しました。その後、退職してお茶の水女子大学の博士課程に進み、学部・修士課程と同じ石口彰教授の御指導のもと、学位を取得いたしました。学位取得後は、お茶の水女子大学や筑波大学（東京キャンパス）で研究員をしていたため、豊橋は、富山と東京以外で生活をする初めての場所です。とても暮らしやすい街で、技科大の広々としたキャンパスや、眺めの良さにも癒される毎日です。

研究の専門分野は認知心理学です。この分野では、人間の知覚（視・聴・触・嗅・味覚）、注意、記憶、意思決定など様々な認知活動の特性、及び、その背後にあるメカニズムを、行動実験やモデリング・シミュレーションを用いて明らかにします。行動と神経活動の関係を明らかにするための神経学的な研究も行います。私の研究では、外界情報の規則性を瞬時に把握・抽出し、効率的に行動する人間の能力に注目し、中でも「ばらつき（刺激分布の分散）」が与える情報の重要性から、その認知メカニズムの研究を行っています。

着任からまだ1ヶ月余りですが、至らない点が多々あり恐縮しながらも、北崎先生をはじめ教員の皆様方、事務の方々に大変お世話になり、良い環境にいられることをとても有り難く思っております。これから私も学生の皆さんの教育や研究に貢献できるよう精一杯努めて参ります。御指導・ご鞭撻のほど、どうぞよろしく願い申し上げます。

情報・知能工学系 助教 長谷川 孔明



2017年10月より情報・知能工学系に助教として着任しました。長谷川孔明と申します。学部から博士後期課程まで筑波大学に在籍し、中内靖教授のご指導のもと博士（工学）を取得しました。その後、慶應義塾大学（今井倫太教授研究室）にて研究員としての研究期間を経たのち、こちらに着任しました。豊橋に移り住んで2ヶ月しか経ちませんが、自然の豊かさやクルマ社会、都市への交通の便など、出身地の新潟や学生時代を過ごしたつくばと似ており、トカイナカの住みやすさを感じます。

私は、ヒューマン・エージェント・インタラクション（HAI）という研究分野に従事しています。エージェントはロボットやバーチャルなキャラクターであり、人間と会話したり、時には言葉を使わず身ぶりや表情でコミュニケーションします。エージェントと人間との関わり方を研究・設計するのがHAIという分野です。修士・博士課程では、会議に遠隔地から参加する際に、身ぶりや視線を代わりに伝えるロボットの研究を行いました。研究員の頃は、人間と馬のあいだでのやりとり（言葉は通じないのに意思疎通できている！）を参考に、それを人工物（自律走行の電動車いす）の設計に活かす研究をしていました。現在所属しているICD-LAB（岡田美智男教授研究室）は、高専出身の学生が技術を活かしエージェントとなるロボットを1から作っており、HAI分野の中でも特徴的な研究室です。私も本学の特色を活かして研究を進展させていくとともに、教育に貢献していきたいと思っておりますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしく願います。

## 言語情報学研究室(井佐原研)の近況 研究室学生一同

卒業生・修了生の皆様、いかがお過ごしでしょうか。諸先輩方におかれましては、ますます御健勝のことと存じます。本稿では、情報・知能工学系言語情報学研究室の近況をご報告いたします。

現在、当研究室では学部 4 年生が 2 名、修士 1 年生が 2 名、修士 2 年生が 4 名の計 8 名が在籍しております。

当研究室では自然言語処理技術に関連した研究をおこなっており、研究内容は多岐にわたります。近年ではニューラルネットワークを用いた機械翻訳について研究する学生が増えています。他にも、小説の創作支援システムの構築に関する研究をしている学生などがおり、皆がそれぞれ研究に励んでいます。学会にも積極的に参加しており、特に国際学会の ICAICTA には当研究室から学生が毎年参加しています。2017 年度の ICAICTA はバリ島で実施され、当研究室からは修士の学生 2 名が参加しました。2 人とも発表を終えた後はバリ島を楽しんだようです。

また、近年は研究室行事が充実してきています。2016 年度には技科大祭で屋台を出し、ケバブを売りました。売り上げは大変好調で、なんと完売することができました。2017 年 3 月には初めて研究室合宿を実施し、浜松にある方広寺というお寺に行きました。そこで、昼はそれぞれ

自分の研究発表をし、夜は食事前に唱える食事五観という偈文を教わり、翌日の朝には早朝から座禅を組むという、とても貴重な経験をしました。普段の生活とは縁遠い生活を体験したことで、皆気持ち引き締まったようです。

他にも、新研究室生歓迎会・忘年会・オープンキャンパス・TUT Jr 技術科学教育プロジェクト (TUT Jr)・ビール電車など様々なイベントに参加しています。ビール電車というのは、豊橋駅前と運動公園の間を路面電車で往復する間、路面電車内で飲み会をするというイベントで、普段の飲み会とはまた違った趣があります。また、ビールに加えておでんも出るおでんしゃというイベントもあり、2017 年にはおでんしゃにも参加しました。集合写真はそのおでんしゃの時に撮ったものです。TUT Jr では、スーパーサイエンスハイスクールの時習館高校の生徒たちに Scratch という直感的に理解しやすいプログラム言語や、JavaScript と HTML 5 を用いたクラウドプログラミングを教えたのですが、生徒たちの知識の吸収の早さにただただ驚くばかりでした。

ご多忙とは存じますが、お近くにお越しの際はお気軽に研究室へとお立ち寄り下さい。最後となりましたが、卒業生・修了生の皆様のさらなるご活躍とご健康を心よりお祈りすると共に、今後とも当研究室を暖かく見守って頂けますよう心からお願い申し上げます。



**生体運動制御システム研究室 近況報告**  
情報・知能工学専攻 修士1年 諏訪部 育麿

卒業生・修了生の皆様方におかれましては、ますますご健勝のことと存じます。現在、生体運動制御システム研究室のメンバーは、福村直博准教授、博士前期課程 8 名、学部 5 名の総勢 14 名で構成されています。

研究室では、これまで長い間取り組んできているヒトの上肢の運動制御システムを解明する研究に加え、視線計測を用いた研究や、VR を用いた車の運転技能獲得に関する研究、さらに Deep Learning につながる AutoEncoder の学習シミュレーションなどの研究に取り組み、国内・国際学会発表や学術論文の執筆を通して研究成果を公開しております。

研究室の行事として、新入生歓迎会、研究室旅行、忘年会、送別会などを行い、先輩と後輩、先生と学生という垣根を越えて一同の親睦を深めております。今年の研究室旅行は京都まで行って、サントリービールのビール工場へ行きプレミアム・モルツの試飲を楽しみ、嵐山まで保津川の川下りを行い雄大な自然に心癒されました。また、近年、OB 会も定期的に毎年 9 ～ 10 月に行っており、遠くから OB の方々が集まってきてくださっております。研究室の活動内容につきましては、研究室のホームページ (<http://www.bmcs.cs.tut.ac.jp/>) や研究室の Twitter

アカウント (@BMCSLab\_TUT) にて公開しております。OB 会のお知らせなども行っているため、ぜひお時間のあるときにご覧いただき、ご一報いただくと幸いです。

また、昨年の夏に、長年慣れ親しんだ C 棟から F 棟 4 階に研究室及び先生の居室を移動しました。引っ越し作業の際にこれまでの研究に使われた器具や何に使っていたのかわからないもの(がらくた?)などにふれ、研究室の歴史を感じる事ができたと共に、多くの不要物品を捨て、さらに新しい研究室では広々とした机をもらって、気持ちを新たにして研究生生活を送っています。

新しい研究室は学生の部屋が 2 部屋に分かれてしまい、物理的な距離はありますが、相変わらず研究室仲はとても良く、たこ焼きパーティーを行ったり、バイクでツーリングへ行ったりしています。伝統の書籍の定期購読も続いており話題に欠くことはございません。

卒業生・修了生の皆様方におかれましては、ご多忙かと思いますが豊橋にお越しの際は、是非お気軽に新しい研究室にお立ち寄り下さい。

最後になりましたが、卒業生・修了生の皆様の益々のご発展、ご活躍を心よりお祈り申し上げます。



### 学内近況報告

系長 浴 俊彦

同窓生の皆様におかれましては、お元気にご活躍のこととお慶び申し上げます。学内では国際化への取り組みとしてシェアハウス型学生宿舎の建設が進んだほか、同窓生の皆様にもご協力いただきました開学40周年記念事業のひとつである図書館の部分改修が完了して、キャンパスはこれまでよりも活気ある雰囲気になっております。本稿では環境・生命工学系の近況についてご報告申し上げます。

まず、前号の同窓会報以降の環境・生命工学系教員の異動についてご報告いたします。2017年3月に平石明先生が定年でご退職、後藤尚弘先生が東洋大学に教授として転出され、本学の教育・研究に長年ご尽力頂いたお二人の先生が本学を去られました。平石先生は1997年に旧エコロジー工学系に着任され、本学創立30周年記念事業の一つである先端農業・バイオリサーチセンターの設立・運営に携われるなど、旧エコロジー工学系、学科再編後の環境・生命工学系で20年の長きにわたり環境微生物学の教育・研究や社会貢献にご尽力いただきました。後藤先生は1998年に旧エコロジー工学系に着任され、旧エコロジー工学系、環境・生命工学系で19年間にわたり、持続社会システム工学の教育・研究にご貢献いただきました。また、2017年4月には水嶋生智先生と高島和則先生が教授に昇任されました。

環境・生命工学系における平成29年度の大きな取り組みとして、JABEE（日本技術者教育認定機構）の受審が挙げられます。28年度後半から受審に向けた検討を重ね、各評価項目に対応したワーキンググループの設置、審査関連資料の整理や規則・制度の確認など水嶋先生を中心に準備を進めて参りました。11月の審査ではほぼ滞りなく審査が進み、審査委員から概ね良好な評価をいただきました。受審に際し、数名の卒業生・修了生の方々には審査委員との面談にご協力いただき

ました。この場を借りてあらためて御礼申し上げます。

環境・生命工学系に所属する教員は、先端環境技術、生態工学、生命工学、分子機能化学の各分野で引き続き活発な教育・研究活動を行なっております。研究室一覧については、別表に掲載させていただきましたのでご参照ください。今年度も、質の高い活発な教育・研究活動を反映して、本系の学生・教員の受賞や研究成果のプレスリリースが数多くありました。最新の情報は本学ホームページや環境・生命工学系ホームページをご覧ください。

以上、環境・生命工学系の近況をご紹介いたしました。環境・生命工学系教職員一同、教育・研究・社会貢献をミッションとして一層励んで参る所存です。今後とも環境・生命工学系の教育・研究活動に一層のご高配・ご支援を賜りますようお願い申し上げます。末筆ながら、同窓生の皆様の益々のご活躍とご健康を心よりお祈り申し上げます。

環境・生命工学系現員表(H29年4月現在)

本務教員				兼務教員			
コース	分野	研究室名	教職員名	本務所属	研究室名	教職員名	
未来環境工学コース	先端環境技術	センシング応用研究室	田中 三郎 教授	教育研究基盤センター	無機材料研究室	中野 裕美 教授	
		機能性界面科学研究室	松本 明彦 教授 伊藤 博光 助教				
		光センシング応用研究室	有吉 誠一郎 准教授				
		反応エネルギー工学研究室	小口 達夫 准教授				
		高電圧・プラズマ応用研究室	高島 和則 教授 栗田 弘史 助教 安田 八郎 助手				
	生態工学	機能触媒システム工学研究室	水嶋 生智 教授 佐藤 裕久 助教 大北 博宣 助手	国際交流センター	資源循環工学研究室	大門 裕之 教授	
		大気・熱環境システム研究室	東海林 孝幸 講師				
	生命物質工学コース	生命工学	分子遺伝学研究室	浴 俊彦 教授 広瀬 侑 助教	エレクトロニクス先端融合研究所	応用共生学研究室	中鉢 淳准教授
			遺伝子工学研究室	田中 照通 准教授			
生体機能制御工学研究室			沼野 利佳 准教授				
生体分子工学研究室			吉田 絵里 准教授				
生命科学研究室			梅影 創 講師				
水圏環境生物工学研究室			山田 剛史 講師				
生命機能科学研究室			吉田 祥子 講師				
分子機能化学		高分子機能化学研究室	伊津野 真一 教授 藤澤 郁英 助手				
		有機合成化学研究室	岩佐 精二 教授				
		マイクロ分離科学研究室	齊戸 美弘 教授				
		高分子材料工学研究室	辻 秀人 教授 荒川 優樹 助教				
		有機反応化学研究室	柴富 一孝 准教授				
		界面物理化学研究室	手老 龍吾 准教授				
		機能性高分子化学研究室	原口 直樹 准教授				

環境・生命工学系事務室	B棟事務室	河合 充代	技術専門職員	太田 初一
	G棟事務室	江口 美由樹		齊藤 年秀
				坂井 悦子



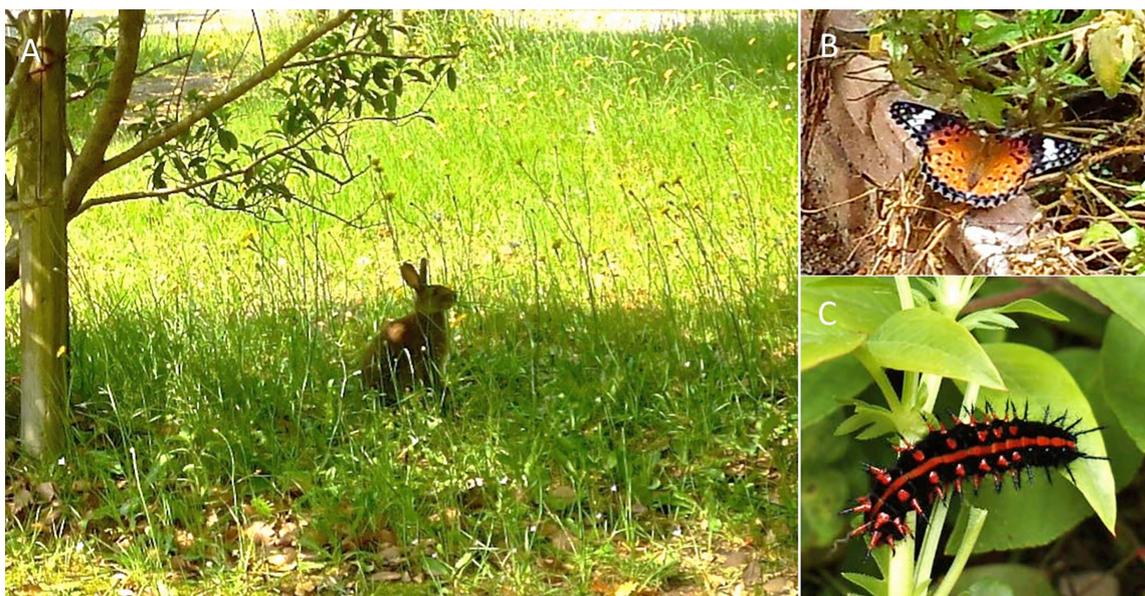
## 退職教員より

### 「仮想から現実へ」

平石 明

豊橋技術科学大学は2016年開学40周年を迎え、それを冠とする様々な記念事業を行ないました。その一環として幸いにも私は記念歌を作る機会に巡り会うことができました。ちょうど定年退職を迎える年度でもあり、それまでを振り返るいい経験と思い出になりました。歌詞の冒頭には「雲雀の丘に建つ.. 自然の息吹を享け..」という一節がありますが、技科大を過ごした方なら誰もが豊かな自然と四季の風に囲まれたキャンパスを思い浮かべることができるでしょう。気になっていることと言えば、広報誌「天伯」にも掲載させていただきましたが、地球規模での気候変動や環境の変化がキャンパスの自然の中にも感じられるようになったことです。研究棟や講義棟を中心に初夏に沢山のツバメが営巣しますが、ヒナ巢の数は20年前の50%以下まで減少しました。以前は野ウサギやキジやアオダイショウなどの野生動物が割と頻繁に見られましたが、在職最後の年で目撃できたのは野ウサギ1回だけでした(写真A)。40年前は中部以北には生息していなかった南方系のチョウであるツマグロヒョウモン

(写真B, C)ですが、現在では中部はおろか関東でも盛んに飛び交う姿が見られます。今年ついに北海道でも発見されたというSNS上での報告を見て驚きました。キャンパス北側から運動場にかけては秋になるとナンキンハゼの美しい紅葉が見られますが、最近では紅葉の時期が極端に遅くなったり、紅葉というよりは枯れ葉のような色づきになることが多いようです。本能的に生きる動植物はこのように環境変化に対してきわめて敏感に応答し、そこにはごまかしはありません。一方で大脳皮質を進化させた人間は生物学的感覚が劣化し、極端に視覚情報と脳活動に頼るようになりました。街中や電車の中で情報端末に釘付けになり、仮想空間を行き来する人間の姿は今や日常的な風景です。これから人工知能に支配されたIoT (Internet of Things) やIoB (Internet of Bodies) の時代が本格的にやってきます。電腦時代を生きる今こそ、あらためて自然からのつぶやきに耳を傾け、目の前の現実に五感を研ぎすますことも必要ではないでしょうか。



写真：キャンパス内で見られた野ウサギ (A) と豊橋市内のツマグロヒョウモン (B, 成虫♀; C, 幼虫)

## 大門研究室紹介

大門 裕之 (平成25年10月から国際交流センターへ異動)

ますますご健勝にてご活躍のことと存じます。これを大阪弁では、「もうかってまっか?」となるのでしょうか。

藤江教授が、昨年12月に横浜国立大学へ異動されました。・・・と、ご挨拶をさせていただいたのは2009年の同窓会報でした。さてさて、今年3月には、後藤先生が教授として東洋大学へ異動されました。大門は、2013年から国際交流センター(留学生支援や日本人学生の留学支援などを担当)へ異動しセンター長を務め、環境・生命工学系の方は、兼務教員となっております。

本研究室では、脱炭素型循環型社会を実現させるため、未利用資源のリサイクル・バイオマス(生物由来の有機性資源)の利活用技術の開発および評価と共に、作物の生産までを行っています。研究室でのラボ試験から、学外にある実験フィールドでの実証試験、産学連携による社会実装まで取り組んでいることが特徴です。実験フィールドでは、未利用資源から電気をつくり、その際に発生する二酸化炭素や熱を植物工場に利用して、トマトを実際に生産しています。2011年からの五年間、下水処理場で実際にトマトと海藻を生産していました。さらに、養豚農家では、糞尿からバイオガスを得て電気をつくっています。国内で初めてとなる本取り組みは、売電により中規模養豚農家の収益性を高めただけでなく、臭気問題の低減、水処理や堆肥品質の安定化、さらに労働環境を改善することができています。このように、未利用資源から有価物を生産することにより、社会的関心を促し、地域および地球環境問題に対する意識改革および新たな社会システムの創出を目指しています。このような産学連携事業を基にした研究活動を通じて、絶えず社会とのつながりを意識し、実践的な専門性と幅広い視野を身に付けることで、人間力の向上を目指し、グローバルに活躍ができる人材育成に取り組んでいます。

本研究室の運営理念は「なんしかやる」です。「なんしか」とは、「とにかく」、「何にしても」という意味をもつ大阪弁であり、「立ち止まらずにやる」、「とにかくやる」ことを表しています。研究室でのシンポジウム(酒宴)の開催頻度は多く、研究室内の親睦を深め、人間力を養っています。また、卒業生との交流をはかるOB・OG会は、ほぼ毎年開催されています。このために、暑中見舞いと年賀状を現役学生からOB・OGへ送り、つながりを大切にしています。さらに、学内の国際交流イベントに学生を必ず参加させ、留学生との交流を推進しています。これまで、研究室から二人の学生がトビタテ!留学JAPAN日本代表プログラムに選ばれています。今年度の学部学生2名は、韓国とベトナムで2ヶ月間の海外実務訓練を行う予定で、研究室内でも国際的になりつつあります。活動内容は膨大なものではありますが、研究室全員は、「なんしかやる」の気持ちで取り組んでいます。

昨年、本学が開学40周年となり、本学の一期生が還暦を迎えました。同窓生一人ひとりの社会でのご活躍が、今後の環境・生命工学系の最も大きな支援となります。益々のご発展を心より期待しております。これを大阪弁にすると「せいだいもうけて、少しは技科大に還元してや」です。2009年同窓会報と同じ結びです。



# 5

## 建築・都市システム学系

### 学内近況報告

助教 岡辺 拓巳

同窓生の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。ご存知のように、少子化が進む中で大学教育が大きな変革期を迎えています。そのような荒波の中で、本学も開学 50 周年へ向けた新たな 1 年を歩み始めております。本学の大きな変革の一つにグローバル化が挙げられますが、これに伴い、学部での講義のバイリンガル化が進みつつあります。建築・土木は、技術や法規に地域色が濃く反映される分野ですが、これらを国際的な表現で教え、学生が理解できるような講義を練り上げることに励んでいます。国際的に活躍できる技術者を多く輩出できるよう、建築・都市システム学系教員が一丸となってこの変革に取り組んでいるところです。

今夏には、国際会議 IGNITE 'AICCE' 17 をマレーシア科学大学と連携して開催しました。IGNITE (International Conference of Global Network for Innovative Technology) は本学が主催する国際会議で、今年は本系がアレンジを担当し、斉藤大樹教授が中心となって開催の準備を進めてきました。会議は 2017 年 8 月 7 ～ 10 日にかけてペナン島 (マレーシア) で開かれ、203 名の研究者・学生が参加し、162 編の研究発表のほか、特別講演やワークショップが行われました。

また、8 月 18 ～ 19 日には高専の建設系教員との交流集会を豊橋で開催しました。これは、毎年夏に長岡技術科学大学と開催場所を交互にして開催しているもので、高専と両技科大の建設系教員が教育や研究などについて議論・情報交換をする場として長年にわたって続いています。初日は研究に関する情報交換が「豊橋市こども未来館ココニコ」で、翌日はシンポジウムとグループディスカッションが本学図書館のオープンスペースで行われました。36 名が参加したシンポジウムでは、高専・技科大における建築・土木分野の存在価値と役割について議論を重ね、教育・研究の課題解決への糸口を探しました。また、教育・研究で高専と技科大が連携することの重要性

を再確認しました。建設系分野の存在感を高めていくような連携体制を具体化するためには、社会のニーズも大切な要件となります。今後も同窓生の皆様からご意見を頂きながら、様々な変化に対応した教育システムを形作っていく所存です。引き続き、本系の活動に一層のご高配とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

今年度、本系で学んでいる学生は、学部 160 名、大学院博士前期課程 106 名、博士後期課程 15 名 (いずれも 5 月現在) となっております。一方、教職員では、昨年度末に松本博教授が定年退職されました。本年度は新たに中村亮太助教、嵯峨慎助手を迎えるとともに、水谷晃啓先生が講師に昇任されました。また、勝野幸司准教授が高専・技科大間人事交流の任期 (1 年) を終え、熊本高専へ戻られました。教授 11 名、准教授 5 名、講師 2 名、助教 7 名、助手 1 名、技術専門職員 2 名、事務職員 4 名 (10 月現在) の体制となっております。

末筆ながら、同窓生の皆様の益々のご活躍を心よりお祈り申し上げます。

#### 教職員一覧(平成29年10月現在)

##### 【建築・都市デザイン学分野】

教 授	齊藤 大樹, 中澤 祥二, 松島 史朗, 都築 和代, 浅野 純一郎, 中森 康之(兼任)
准 教 授	松井 智哉, 松本 幸大
講 師	水谷 晃啓
助 教	林 和宏, 鍋島 佑基, 辛島 一樹, 劉 一辰

##### 【都市・地域マネジメント学分野】

教 授	宮田 譲(系長), 三浦 均也, 井上 隆信, 加藤 茂, 藤原 孝男(兼任)
准 教 授	横田 久里子, 渋澤 博幸, 杉木 直
講 師	松田 達也
助 教	岡辺 拓巳, 松尾 幸二郎, 中村 亮太(新任)
助 手	嵯峨 慎(新任)

##### 【両分野】

技術専門職員	金田 隆文, 片岡 三枝子
--------	---------------



## 退職教員より

### 「技科大29年間の思い出」

建築・都市システム学系 名誉教授 松本 博

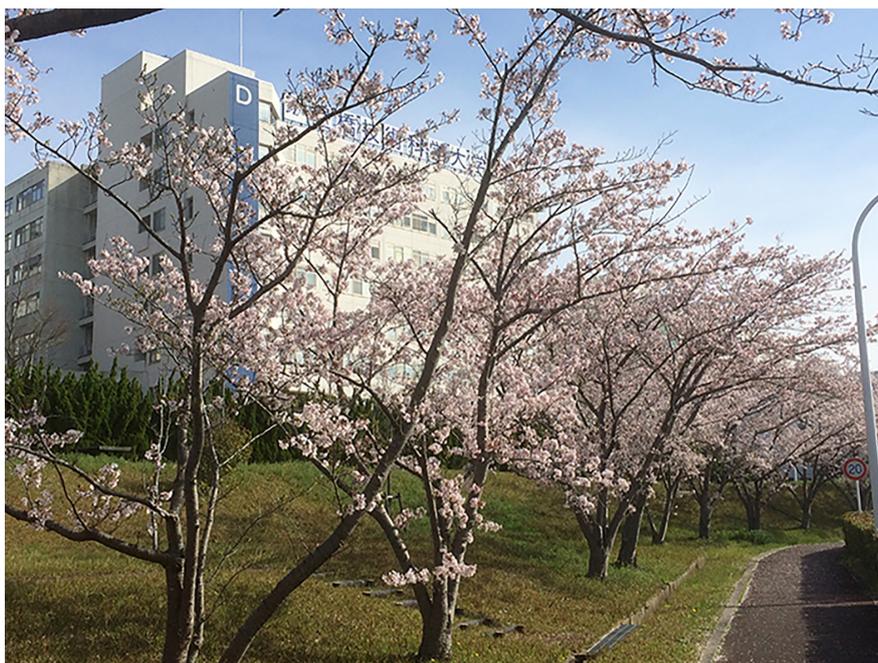
私は昭和63年4月に東北大学から本学に講師として着任しました。その前年に旧建設工学系教授の本間先生に声をかけていただいたのがきっかけです。昭和64年が昭和天皇ご逝去でわずか1週間しかありませんでしたので、実質的には昭和最後の年です。その後、助教授を経て今から11年前に教授に昇任、平成29年3月に定年退職しました。在任29年間を振り返ると、いろいろな思い出がありますが、どちらかと言うと辛かったこと、失敗したことの方が強く印象に残っています。

その中で一番辛かった思い出は、5年前の故山田先生のご不幸に直面したときです。当時系長として系会議の場で教職員に訃報を報告したときには、不覚にも涙が溢れて言葉になりませんでした。山田先生とは大学が同窓で長年助手として同じ教育現場にもいましたので、本当にショックでその後の系の運営を果たしてうまくやっていけるどうか、途方にくれたこともありました。そのとき、支えになってくれたのが系のスタッフでした。非常に献身

的に系の業務や学生のケアをしてくれました。このときほど人の絆の有難さを感じたことはありません。

在任中に感じた本学の良さの一つに、人と人の距離がとても近いということではないかと思います。私は着任以来、第2代学長の本多波雄先生に始まり、現学長の大西先生まで6代の学長との出会いがありましたが、これほど学長先生との距離が近く、またじっくりと直接お話できる大学は他にないのではないのでしょうか。

私は研究面では必ずしも納得できる成果が得られたとは思っていませんが、講義等の教育面では手を抜かず全力でやってきた自負があります。現役最後の国際プログラムの講義で留学生から感謝と一緒に集合写真を撮りましょうと言われたことは、これまで真摯にとりくんできた教育が多少報われた気がして正直とても感激した思い出があります。これまでの幸せな29年間に感謝しつつ、今後の豊橋技術科学大学の益々の発展をお祈りします。



私のお気に入り、桜並木のプロムナード (2016年4月5日)



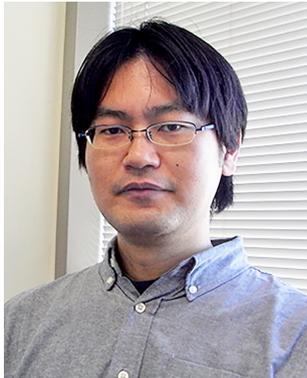
## 新任教員より



建築・都市システム学系 助教 中村 亮太 (なかむら りょうた)

2017年4月より早稲田大学創造理工学研究科から着任いたしました中村亮太と申します。海岸工学を専門としており、台風による高潮などの沿岸域災害の災害素因の特定を数値モデルや現地調査結果を用いて行っています。豊橋周辺は風が強く、遠州灘付近は台風も頻繁に通過する私の研究には最適な沿岸地帯です。このように大気や海洋が著しく変化する沿岸域の流動場が近くにある豊橋技術科学大学に赴任できたことは幸運であったと思います。

今後とも研究・教育を頑張りますので、どうぞよろしくお願いいたします。



建築・都市システム学系 助手 嵯峨 慎 (さが まこと)

2017年1月に神戸大学研究基盤センターから着任しました嵯峨慎と申します。

これまでに蛍光・化学発光を利用した水溶液中の化学物質(発がん性物質や還元剤等)の分析(検出・定量)のほか、金属錯体を利用した機能性材料の開発の研究を行っていました。

まだまだ研究・教育者としての経験が浅く、至らない点も多々ありますが、本学の教育ならびに研究の向上のため皆様と共に尽力し、精進して参ります。どうぞよろしくお願いいたします。

## 都市計画研究室の近況報告

建築・都市システム学系 助教 辛島 一樹

同窓生の皆様にはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。本稿では、建築・都市システム学系の都市計画研究室の紹介と近況について報告させていただきます。

さて、都市計画研究室ですが、現在は3名の教員（教授：浅野純一郎、助教：辛島一樹、劉一辰）と、20名の学生（博士後期課程：留学生2名、博士前期課程：11名（留学生3名）、学部生：7名）で構成されています。

まず研究内容についてですが、人口減少・経済低成長時代を迎え、地球環境への影響をも踏まえた都市づくり、特に地方都市ではコンパクトで持続可能な都市が求められています。こうした都市づくりの是非に大きく影響するのが土地利用計画です。そこで当研究室では、地方都市の郊外土地利用計画に着目し、都市計画区域、線引き制度、開発許可制度、地区計画制度、自治体自主条例等の土地利用規制制度を精査しながら、開発の実態と制度・運用との齟齬を明らかにし、その問題点を追求しています。最近の具体的な取組みとしては、逆線引き（市街化区域→市街化調整区域）の運用状況、都市縮小対策に関する国際比較研究、立地適正化計画の策定状況に関する研究、公共公益施設統合の実態に関する研究を進めています。その他にも、近代都市計画市・都市形成史や都市デザイン、東アジアの近・現代都市計画史、都市防災、広域空間計画に関する研究など、幅広いテーマで活動しています。

研究以外にも様々な活動を行っています。特徴的な活



飯田市シャレットワークショップ発表会の様子

動として、長野県飯田市での都市デザインシャレットワークショップがあります。この活動は高専連携教育プロジェクトの一環で、今年度で7回目を迎え、これまで長野高専や豊田高専、熊本高専、徳山高専と連携し実施してきました。今年度は、長野高専・豊田高専と連携し、当研究室・高専の学生との混合のグループをつくり、8月に4泊5日の短期間で、まち歩きからはじめ、現地調査や飯田市職員や地域住民の方へのヒアリング等を重ね、地域資源を生かした対象地区の将来の「まち」のあり方を考え、都市デザイン提案を作成し、最終日に地域住民や市長・市職員の方々の前で成果発表会を行いました。学生たちにとって貴重な経験となりました。

ゼミ旅行では、郡上八幡と美濃を1泊2日で訪ねました。都市計画研究室ということもあり、事前の資料作成にこだわり、都市の特徴や土地利用に関する制度、まちの見どころなどの情報を調査し資料にまとめ、その資料を基に、当日のまち歩きを楽しみました。

研究室の研究や活動の一部は、研究室のホームページ(<http://urbandesign.web.fc2.com/MOTHER-hp/STU-hp/index.html>)で紹介していますので、興味のある方はぜひご覧になってください。

最後になりましたが、卒業生・修了生の皆様のもますますのご活躍をお祈りしますとともに、今後とも都市計画研究室をご支援くださいますようお願い申し上げます。



ゼミ旅行の様子

## 海外同窓会 報告書

### 海外同窓会スリランカ支部設立会議報告

同窓会顧問 高嶋 孝明 (本学国際協力センター)

スリランカの TUT 同窓会・海外支部設立会議を 2016 年 12 月 17 日 (土) に Berjaya Hotel Colombo にて行いました。スリランカの前留学生 7 名と TUT から大貝理事、高嶋先生、Lim 先生が出席しました。TUT の最近の状況、同窓会組織の紹介の後、支部長の選出を行いました。その結果、互選により、支部長には Lolitha Sri Amaragiri Wickramasinghe 氏、副支部長には Salinda Piladuwa Paranaheva 氏を選出しました。

同日には、Palm Beach Hotel にて、豊橋技科大・長岡技科大 (NUT)・高専機構 (NIT) による「三機関合同海外同窓生の集い」も開催しました。参加者は前記の TUT 関係者・TUT OB に加え、NUT OB・関係者 9 名と NIT OB・関係者 3 名が加わり、合計 24 名となり、参加者間の親交を深めました。



参加した TUT スリランカ元留学生

前列の左端：スリランカ支部長に選出された Lolitha Wickramasinghe さん

前列の右から 2 人目：スリランカ副支部長に選出された Salinda Piladuwa Paranaheva さん



三機関合同海外同窓会議・交流会（スリランカ）の出席者



三機関合同海外同窓会議・交流会（スリランカ）の様子

## 海外同窓会中国（北京・上海）支部設立準備会議報告

同窓会顧問 高嶋 孝明（本学国際協力センター）

中国の TUT 同窓会・海外支部設立準備会議および豊橋技科大・長岡技科大（NUT）・高専機構（NIT）による「三機関合同海外同窓生の集い」を 2017 年 3 月 11 日（土）に北京、3 月 12 日（日）に上海にて行いました。

北京においては、TUT OB 13 名、TUT 関係者 8 名、NUT OB 11 名、NUT 関係者 6 名が出席しました。また、上海においては、TUT OB 19 名、TUT 関係者 9 名、NUT OB 20 名、NUT 関係者 5 名が出席しました。

海外支部設立準備会議においては、大学の現状および同窓会の活動状況を説明した後、参加卒業生の互選で、中国支部の代表者を選出しました。その結果、北京支部の支部長に Chen Zi Li（陳自力）氏（1999 環境生命修

了 宮田研究室）、副支部長に Xiao An（陳晓安）氏（1999 機械システム修了 北村研究室）、顧問として Wang Lei（王磊）氏（1990 生産システム修了 小林研究室）が決まりました。また、上海支部においては、支部長に Zhu Li（朱力）氏（1998 機械システム修了 山田研究室）、副支部長に Qin A Chun（秦阿春）氏（1999 エコロジー修了 藤江研究室）が決まりました。

海外支部設立準備会議の後に開催された豊橋技科大・長岡技科大（NUT）・高専機構（NIT）による「三機関合同海外同窓生の集い」においては、NUT の卒業生と関係者も交え、各出席者からの近況報告や歓談が行われ、盛大な会となりました。



参加した TUT 中国（北京）元留学生

前列の左から 3 人目：中国・北京支部長に選出された陳自力さん  
前列の左から 2 人目：中国・北京副支部長に選出された陳晓安さん  
前列の右から 3 人目：中国・北京顧問に選出された王磊さん



三機関合同海外同窓会議・交流会（北京）の出席者



三機関合同海外同窓会議・交流会（北京）の様子



三機関合同海外同窓会議・交流会（上海）の出席者



三機関合同海外同窓会議・交流会（上海）の様子



上海支部長に選出された朱 力さん



上海副支部長に選出された秦 阿春さん



## 同窓会事務局より

### ・・・・・・・・ 同窓会事業報告および予定（平成28年度～29年度） ・・・・・・・・

#### 1. 定例役員会の開催

平成 29 年度は、平成 29 年 11 月末現在までに 2 回の定例役員会を開催し、同窓会活動に関して話し合いました。第 3 回および 4 回は平成 30 年 1 月～ 3 月の間に開催予定です。役員会の議事録は、ホームページ上 (<http://www.alumni.tut.jp/>) にて閲覧できます。

#### 2. 学長との懇談会

平成 29 年 6 月 27 日に華乃井テラスにて大西学長との懇談会を行いました。大学執行部からは大西学長、井上理事・副学長、児島理事・事務局長、神野理事、同窓会からは古野会長、高嶋顧問、稲田副会長が出席しました。主に、開学 40 周年記念事業報告、本年度予定している同窓会事業の内容、名簿管理システムを中心とした大学と同窓会との連携作業等について意見交換を行いました。

#### 3. 定例総会の開催

平成 29 年 7 月 23 日に、駅前サテライトオフィスにて定例総会を開催し、平成 28 年度の事業報告および収支決算報告を行うと共に、平成 29 年度の事業計画および収支予算案の内容について議論しました。総会の議事録は、ホームページ上 (<http://www.alumni.tut.jp/>) にて閲覧できます。

#### 4. 会報の発行

同窓会報第 34 号を平成 29 年 3 月に発行しました。これまで同様、電子化してホームページ (<http://www.alumni.tut.jp/>) にて公開しており、随時閲覧可能になっています。第 35 号（本号）は平成 29 年度中の発行に向けて編集作業を進めており、Web 名簿システムを介した同窓生の皆様への会報発行のメール周知を予定しています。

#### 5. Web 名簿システムの運用

平成 27 年 5 月より運用開始した Web 名簿システムに関して、新会員の登録・ID/Password 発行、案内等の返送情報に基づく登録情報の更新、既登録会員の情報追加修正、会員登録方法・本人確認などの問合せ対応、同窓会・大学からの一斉メール通知、名簿情報提供用データの作成等を行いました。

登録情報の拡充に向けて、大学に新設された卒業生支援事務担当と連携・協力を行っています。また、システム管理に係る作業の増加に伴い、事務補佐員で定期的に対応しています。

#### 6. OG ネットワークの構築・活用

Web 名簿システムの登録情報を活用して OG 会員名簿を整備しました。本学の男女共同参画推進本部との共催で、平成 30 年 3 月 13 日 18 時から本学図書館 1 階にて、OG 会キックオフイベントとして、ロールモデルによるキャリアパス講演会 + 意見交換会の開催を企画しています。詳細は、近日中にアナウンスする予定です。

## 7. 卒業記念パーティーの開催

平成 29 年 3 月 23 日にアイプラザ豊橋にて行われた大学院修了式・学部卒業式後に、大学学生食堂において学友会との共催で卒業記念パーティーを開催し、古野会長、高嶋顧問、稲田副会長が出席しました。平成 29 年度（平成 30 年 3 月 23 日）も例年通り行う予定です。

## 8. 同窓会会長賞

開学 40 周年記念同窓会事業の一つとして同窓会会長賞を新設し、本学大学院に進学予定の学部 4 年次成績優秀者 19 名を表彰（学生の選出は各系に一任）しました。平成 29 年 3 月 23 日の卒業記念パーティー冒頭に同窓会会長賞授与式を実施し、古野会長から各学生に賞状・副賞を授与しました。本制度は、平成 29 年度も継続して実施する予定です。

## 9. 学生活動への援助

大学学生課との共同で、学生活動援助を平成 29 年度は 20 団体に行いました。詳細は本文をご覧ください。

## 10. 大学食堂「めざましごはん」経費の支援

大学食堂の朝食「めざましごはん」について、平成 30 年 1 月からの授業開講期間において、週 1 日の朝食費用の一部を同窓会から支援しています。

## 11. 懇親会、パーティー等交流活動開催の助成

本学同窓生が参加する懇親会、パーティー等の交流活動を支援しています。平成 29 年度は平成 29 年 12 月現在で 10 団体に対して助成を行いました。詳細は本文をご覧ください。なお、同窓生支援事業の詳細・申請方法はホームページ上 (<http://www.alumni.tut.jp/>) に掲載されていますので、是非ご覧ください。

## 12. 海外同窓会活動

平成 28 年 12 月 17 日にスリランカ（コロンボ）、平成 29 年 3 月 11 日・12 日に中国（北京、上海）にて同窓会海外支部設立準備会が開催され、同窓会から高嶋顧問が出席しました。各準備会において、各国の同窓生参加者から支部長・副支部長を選出しました。

また、平成 30 年 3 月に、同窓会マレーシア支部支部長の Zaba bin Youn 氏とマレーシア出身の同窓生 2 名が、本学主催セミナーでの講演と留学生懇談会への参加のために、来日される予定です。

# 平成28年度 同窓会収支報告・事業報告

## 平成28年度 豊橋技術科学大学同窓会 決算報告

### 予算

#### ■ 収入の部

入会金	1,940,000
会費	3,880,000
預金利息	10,000
会報広告費	80,000
H28年度収入計	5,910,000
H27年度からの繰越金※	61,901,532
合 計	67,811,532

### 決算

#### ■ 収入の部

入会金(388名×5,000)	1,940,000	
会費(388名×10,000)	3,880,000	
預金利息	742	
郵便普通		6
銀行普通(三井住友)		348
銀行定期(三井住友)		388
会報広告費	0	
H28年度収入計	5,820,742	
H27年度からの繰越金	61,901,532	
合 計	67,722,274	

予算

■ 支出の部

会報経費	700,000
役員経費	100,000
庶務経費	150,000
海外同窓会出張費	500,000
卒業記念パーティ援助金	250,000
学生活動援助金	500,000
同窓生懇親会開催援助	800,000
技科大同窓生集いの部屋経費	50,000
各系および海外同窓会活動支援経費	1,000,000
同窓会管理システム経費	650,000
開学40周年記念寄付金	4,000,000
40周年記念事業活動経費	4,500,000
各系同窓会準備金	1,500,000
各系同窓会実施補助金	2,000,000
海外支部支部長招へい支援金	500,000
記念講演会実施費用	120,000
同窓会会長賞	380,000
H28年度支出計	8,119,538
H29年度への繰越金	58,238,096
合計	66,357,634

決算

■ 支出の部

会報経費	754,500	
会報No.32		259,000
会報No.33		223,000
会報No.34		272,500
役員経費	55,000	
2016/5/11役員会(古野会長2000円+役員1000円×13名)		15,000
2016/7/31総会(古野会長2000円+役員1000円×12名)		14,000
2016/11/14役員会(古野会長2000円+役員1000円×12名)		14,000
2017/3/14役員会(古野会長2000円+役員1000円×10名)		12,000
庶務経費	89,144	
各種振込手数料		11,232
入会案内書類一式印刷サービス(朝倉印刷)		13,500
学長懇談会経費		24,978
2016年度総会お茶菓子代(山本先生立替分)		2,580
2015年度総会参加者懇親会(2015.7.11実施,山本先生立替分)		25,000
名簿データ用DVD-RおよびUSB(安部先生立替分)		8,854
会計監査作業謝金(赤井先生)		3,000
海外同窓会出張費	0	
卒業記念パーティ援助金	250,000	
学生活動援助金	500,000	
課外活動援助		500,000
卒業生懇親会開催援助	314,000	
材料機能制御研究室(H28.4.9実施,支援対象参加者18名)		36,000
極限成形システム研究室同窓会(H28.7.9実施,支援対象参加者30名)		60,000
平成28年度同窓会定例総会出席者懇親会(H28.7.31実施,支援対象参加者11名)		22,000
第7回雲雀会(H28.4.21実施,支援対象参加者54名)		108,000
豊橋日曜学校43周年記念会(H28.9.18実施,支援対象参加者18名)		36,000
接合加工/界面・表面創製研究室同窓会(H28.12.3実施,支援対象参加者12名)		24,000
海岸研OB会(H28.9.17実施,支援参加対象者14名)		28,000
技科大同窓生集いの部屋経費	26,295	
集いの部屋お茶菓子代		4,295
集いの部屋学生アルバイト代(前日準備3000円×2名+当日補助4000円×4名)		22,000
各系および海外同窓会活動支援経費	202,750	
ミャンマー同窓会開催支援(高嶋先生立替分)		36,838
スリランカ同窓会開催支援(高嶋先生立替分)		27,554
中国同窓会開催支援(高嶋先生立替分)		138,358
同窓会管理システム経費	604,136	
会員管理システム事務局+会員利用料(44,928円/月×12月)		539,136
システム管理事務補佐経費		65,000
開学40周年記念寄付金	4,000,000	
40周年記念事業活動経費	1,811,267	
新2系・3系合同同窓会(第2回三志会)案内はがき印刷・郵送費用		337,311
新2系・3系合同同窓会事前打合せ交通費(岐阜高専所先生(旧3系OB))		19,350
新2系・3系合同同窓会開催補助金(会場費,飲食費等)		287,060
新2系・3系合同同窓会司会者(鈴木理香子さん)謝金+交通費		70,000
新2系・3系合同同窓会学生アルバイト謝金(現地5000円×1名+豊橋駅案内2000円×3名)		11,000
新2系・3系合同同窓会名札+ケース代		4,439
新2系・3系合同同窓会記念品(フラッシュペーパー198,392円+関税15,900円)		214,292
新1系同窓会案内発送費用		101,708
新1系同窓会準備金(事務用品7,625円+業務補助経費41,000円)		48,625
新1系同窓会開催補助金(会場費,飲食費等)		243,140
記念講演会実施経費(荒井さん謝金30,000円+交通費25,280円+チラシ印刷費18,329円)		73,609
同窓会会長賞経費(副賞20,000円×19名+記章6,824円+賞状13,909円)		400,733
H28年度支出計	8,607,092	
H29年度への繰越金(A)	59,115,182	
合計	67,722,274	

平成29年度 豊橋技術科学大学同窓会 予算(案)

■ 収入

項 目	金 額 (円)	
入会金(5,000円×380人)	1,900,000	
会費(10,000円×380人)	3,800,000	
預金利息	1,000	
H29年度収入計	5,701,000	
H28年度からの繰越金	59,115,182	
合 計	64,816,182	

■ 支出

項 目	金 額 (円)	
会報経費(No.35)	300,000	
役員経費	130,000	
庶務経費	150,000	
海外同窓会出張費	500,000	
卒業記念パーティ援助金	250,000	
学生活動援助金	500,000	
同窓生懇親会開催援助	800,000	
各系および海外同窓会活動支援経費	1,000,000	
各系活動支援経費		500,000
海外同窓会活動支援経費		500,000
同窓会Web名簿システム経費(管理費540,000円+事務補佐費300,000円)	840,000	
同窓会Web名簿システム登録情報収集経費	1,000,000	
同窓会会長賞経費(賞状15,000円+副賞380,000円)	395,000	
「めざましご飯」支援経費(250円×100食×後期 週1回×16週)	400,000	
H29年度支出計	6,265,000	
H30年度への繰越金	58,551,182	
合 計	64,816,182	

## 第65回東海地区国立大学体育大会成績結果一覧

- 1 日 時 平成28年 5月28日(土)・29日(日)  
 6月10日(土)・11日(日),18日(土)・19日(日),25日(土)・26日(日)  
 7月2日(土)・3日(日),9日(土)・10日(日),18日(月・祝)
- 2 場 所 ウェーブスタジアム刈谷他19会場
- 3 幹事大学 豊橋技術科学大学
- 4 成 績

(男 子)

大学名 競技種目		豊技大		静岡大		浜医大		愛教大		三重大		名古屋大		岐阜大		名工大	
		順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点
1	陸上競技	7	2.0	4	5.0	-	0.0	1	10.0	3	6.0	2	8.0	5	4.0	6	3.0
2	水泳	7	2.0	5	4.0	8	1.0	3	6.0	4	5.0	1	10.0	2	8.0	6	3.0
3	硬式野球	5	2.0	1	8.0	/	/	3	4.5	5	2.0	3	4.5	2	6.0	5	2.0
4	準硬式野球	5	2.5	1	10.0	5	2.5	3	5.5	3	5.5	5	2.5	5	2.5	2	8.0
5	硬式テニス	5	2.5	2	8.0	5	2.5	5	2.5	3	6.0	1	10.0	5	2.5	4	5.0
6	ソフトテニス	5	2.5	2	8.0	5	2.5	1	10.0	4	5.0	5	2.5	3	6.0	5	2.5
7	バスケットボール	6	1.0	5	2.0	/	/	3	4.0	4	3.0	/	/	2	5.0	1	6.0
8	バレーボール	8	1.0	2	8.0	5	4.0	1	10.0	7	2.0	4	5.0	3	6.0	6	3.0
9	卓球	-	0.0	3	5.0	/	/	4	4.0	2	6.0	1	8.0	5	3.0	6	2.0
10	バドミントン	4	5.0	1	10.0	7	2.0	8	1.0	5	4.0	3	6.0	2	8.0	6	3.0
11	サッカー	4	5.0	-	0.0	1	10.0	5	3.0	5	3.0	3	6.0	2	8.0	5	3.0
12	ハンドボール	/	/	6	1.0	/	/	1	6.0	5	2.0	3	4.0	2	5.0	4	3.0
13	柔道	-	0.0	3	4.0	/	/	4	3.0	5	2.0	1	6.0	2	5.0	/	/
14	剣道	5	2.5	4	5.0	5	2.5	1	10.0	5	2.5	3	6.0	2	8.0	5	2.5
15	空手道	/	/	3	4.0	5	2.0	6	1.0	4	3.0	1	6.0	2	5.0	/	/
16	弓道	5	2.0	1	8.0	5	2.0	/	/	4	4.0	3	5.0	5	2.0	2	6.0
17	体操	/	/	3	3.0	/	/	-	0.0	/	/	1	5.0	2	4.0	-	0.0
18	馬術	/	/	4	2.0	/	/	4	2.0	3	4.0	4	2.0	2	5.0	1	6.0
19	アーチェリー	/	/	3	3.0	/	/	2	4.0	1	5.0	5	1.0	4	2.0	/	/
20	少林寺拳法	/	/	2	3.0	/	/	/	/	4	1.0	1	4.0	3	2.0	/	/
合計得点			30.0		101.0		31.0		86.5		71.0		101.5		97.0		58.0
男子順位			8		2		7		4		5		1		3		6

(女 子)

大学名 競技種目		豊技大		静岡大		浜医大		愛教大		三重大		名古屋大		岐阜大		名工大	
		順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点
1	陸上競技	/	/	5	3.0	7	1.0	1	8.0	3	5.0	2	6.0	4	4.0	6	2.0
2	水泳	/	/	4	4.0	5	3.0	1	8.0	6	2.0	3	5.0	2	6.0	7	1.0
5	硬式テニス	/	/	1	6.0	2	5.0	3	4.0	4	3.0	6	1.0	5	2.0	/	/
6	ソフトテニス	/	/	1	8.0	5	2.0	4	4.0	5	2.0	2	6.0	3	5.0	5	2.0
7	バスケットボール	5	2.0	1	6.0	/	/	3	4.0	4	3.0	-	0.0	2	5.0	/	/
8	バレーボール	/	/	3	4.0	/	/	1	6.0	-	0.0	4	3.0	2	5.0	5	2.0
9	卓球	/	/	3	5.0	6	2.0	5	3.0	7	1.0	1	8.0	2	6.0	4	4.0
10	バドミントン	/	/	3	5.0	6	2.0	5	3.0	1	8.0	4	4.0	2	6.0	7	1.0
12	ハンドボール	/	/	3	2.0	/	/	1	4.0	-	0.0	/	/	2	3.0	/	/
13	柔道	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
14	剣道	/	/	3	5.0	5	3.0	1	8.0	4	4.0	2	6.0	-	0.0	-	0.0
15	空手道	/	/	4	3.0	2	5.0	6	1.0	1	6.0	5	2.0	3	4.0	/	/
16	弓道	-	0.0	3	5.0	6	2.0	/	/	2	6.0	1	8.0	4	4.0	5	3.0
17	体操	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
19	アーチェリー	/	/	1	5.0	/	/	2	4.0	3	2.0	3	2.0	3	2.0	/	/
20	少林寺拳法	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
合計得点			2.0		61.0		25.0		57.0		42.0		51.0		52.0		15.0
女子順位			8		1		6		2		5		4		3		7

## 第66回東海地区国立大学体育大会成績結果一覧

1 日 時 平成29年 5月20日(土)・21日(日)  
 6月3日(土)・4日(日),10日(土)・11日(日),17日(土)・18日(日),24日(土)・25日(日)  
 7月1日(土)・2日(日),8日(土)・9日(日),15日(土)・16日(日),23日(日)

2 場 所 ウェーブスタジアム刈谷他15会場

3 幹事大学 静岡大学

4 成 績

(男 子)

大学名 競技種目		静岡大		浜医大		愛教大		三重大		名古屋大		岐阜大		名工大		豊技大	
		順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点
1	陸上競技	2	8.0	8	1.0	1	10.0	4	5.0	3	6.0	6	3.0	5	4.0	7	2.0
2	水泳	4	5.0	8	1.0	3	6.0	6	3.0	1	10.0	2	8.0	5	4.0	7	2.0
3	硬式野球																
4	準硬式野球	5	2.5	5	2.5	3	5.5	3	5.5	1	10.0	5	2.5	2	8.0	5	2.5
5	硬式テニス	2	8.0	3	6.0	4	5.0	5	2.5	1	10.0	5	2.5	5	2.5	5	2.5
6	ソフトテニス	3	6.0	-	0.0	4	5.0	6	3.0	5	4.0	1	10.0	2	8.0	7	2.0
7	バスケットボール	5	2.0	/	/	1	6.0	2	5.0	/	/	3	4.0	4	3.0	6	1.0
8	バレーボール	2	8.0	-	0.0	3	6.0	5	4.0	1	10.0	4	5.0	7	2.0	6	3.0
9	卓球	1	8.0	/	/	6	2.0	3	5.0	2	6.0	5	3.0	4	4.0	7	1.0
10	バドミントン	3	6.0	5	4.0	8	1.0	4	5.0	2	8.0	1	10.0	7	2.0	6	3.0
11	サッカー	1	10.0	5	2.5	3	6.0	4	5.0	5	2.5	5	2.5	2	8.0	5	2.5
12	ハンドボール	6	2.0	-	0.0	1	8.0	4	4.0	5	3.0	2	6.0	3	5.0	/	/
13	柔道	3	4.0	/	/	5	1.5	4	3.0	1	6.0	5	1.5	2	5.0	/	/
14	剣道	2	8.0	7	2.0	6	3.0	4	5.0	3	6.0	1	10.0	5	4.0	8	1.0
15	空手道	3	5.0	2	6.0	6	2.0	5	3.0	1	8.0	4	4.0	/	/	7	1.0
16	弓道	2	6.0	4	4.0	/	/	5	2.0	1	8.0	7	2.0	3	5.0	6	2.0
17	体操	3	3.0	/	/	-	0.0	-	0.0	1	5.0	2	4.0	/	/	/	/
18	馬術	3	4.0	/	/	2	5.0	6	1.0	5	2.0	4	3.0	1	6.0	/	/
19	アーチェリー	5	1.0	/	/	2	4.0	4	2.0	1	5.0	3	3.0	/	/	/	/
20	少林寺拳法	3	2.0	/	/	/	/	4	1.0	1	4.0	2	3.0	/	/	/	/
合計得点			98.5		29.0		76.0		64.0		113.5		87.0		70.5		25.5
男子順位			2		7		4		6		1		3		5		8

(女 子)

大学名 競技種目		静岡大		浜医大		愛教大		三重大		名古屋大		岐阜大		名工大		豊技大	
		順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点
1	陸上競技	2	6.0	6	2.0	1	8.0	3	5.0	5	3.0	4	4.0	7	1.0	/	/
2	水泳	6	2.0	4	4.0	2	6.0	5	3.0	3	5.0	1	8.0	7	1.0	/	/
5	硬式テニス	3	4.0	1	6.0	2	5.0	5	1.5	4	3.0	5	1.5	/	/	/	/
6	ソフトテニス	1	8.0	-	0.0	4	4.0	3	5.0	2	6.0	6	2.0	5	3.0	/	/
7	バスケットボール	1	4.0	/	/	3	2.0	4	1.0	/	/	2	3.0	/	/	/	/
8	バレーボール	5	2.0	/	/	1	6.0	-	0.0	3	4.0	2	5.0	4	3.0	/	/
9	卓球	2	5.0	/	/	5	2.0	6	1.0	4	3.0	3	4.0	1	6.0	/	/
10	バドミントン	6	2.0	4	4.0	5	3.0	1	8.0	2	6.0	3	5.0	7	1.0	/	/
12	ハンドボール																
13	柔道																
14	剣道	2	6.0	7	1.0	1	8.0	4	4.0	3	5.0	5	3.0	6	2.0	/	/
15	空手道	2	5.0	1	6.0	5	2.0	3	4.0	4	3.0	6	1.0	/	/	/	/
16	弓道	6	1.0	4	2.5	/	/	1	6.0	2	5.0	4	2.5	3	4.0	/	/
17	体操																
19	アーチェリー	1	5.0	/	/	2	4.0	-	0.0	-	0.0	3	3.0	/	/	/	/
20	少林寺拳法																
合計得点			50.0		25.5		50.0		38.5		43.0		42.0		21.0		0.0
女子順位			1		6		1		5		3		4		7		8

## 【学生活動への援助報告】

現在同窓会では、同窓会活動の活性化・効率化を目的に大学との連携強化を進めております。その一環として、2006年度より大学運営委員会の一つである学生生活委員会と共同で「課外活動活性化経費援助」を行っています。同窓会では会員の皆様のご理解、ご協力を賜りながら、今後も学生活動に対して積極的な援助を続けたいと考えています。

### ラグビー部

建築・都市システム学課程 4年 西田 未有  
顧問教員：環境・生命工学系 講師 東海林 孝幸  
部員数：学部 16名、大学院 8名

この度は課外活動活性化経費にて、私どもラグビー部を支援して頂き誠にありがとうございました。部員一同、心よりお礼申し上げます。援助金は、ラインカー、メジャー、そしてボールの空気入れの購入に使用させていただきました。ラインカーとメジャーは試合前の準備に、空気入れは練習や試合前に使わせていただいております。現在、ラグビー部は大学院生 8名、学部生 16名の計 24名で活動を行っています。私達は毎週火、木曜日の放課後、そして土曜の午前中に本学グラウンドにて練習しています。時には他大学や社会人チームと練習試合や合同練習を組んでいます。ラグビー部は東海学生連盟 Cリーグに所属しており、現在東海学生ラグビーリーグ戦の真ただ中です。Bリーグへの昇格を目指し奮闘しています。しかし、最近初心者の割合が増え人数がギリギリという厳しい状況にあります。ですが、今年から新しい部室ができ、グラウンドが改修されより良い練習環境が整ってきたので、来年からの練習の質を上げていくことができると思います。このように活動できるのも先輩方のご支援があるからです。心より感謝いたします。これからも先輩方への感謝の気持ちを忘れず、目標に向かってチーム一丸となって精進してまいりますので、ご支援とご声援のほどよろしくお願いいたします。



### バドミントン部

機械工学課程 4年 瀧下 啓介  
顧問教員：情報・知能工学系 准教授 菅谷 保之  
部員数：学部 49名、大学院 6名

このたびは課外活動活性化経費としまして、バドミントン部をご支援いただき誠にありがとうございます。部員一同、心より感謝申し上げます。私たちバドミントン部は、部員数 55名で、バドミントンというスポーツを通じて学年や研究分野を超えた学生間の親睦を深めるとともに、各大会において優秀な成績を修めることを目標として、毎週月・金曜日の 19時～22時に大学の体育館にて練習を行っています。ここ数年優秀な成績を残せてこられたのは、昨年まで部活を引っ張ってくれていた先輩方のおかげでした。そのため、その先輩方が卒業した今年も、先輩方の足元にも及ばない成績しか残せませんでした。そこで私たちは、先輩たちが残してきた成績に少しでも近づこうと、ゼロから再スタートを切って練習に励んでいます。

練習内容はランニング、基礎打ち、ノック、試合練習です。また、週に 2回の練習以外に、外部への練習などにも積極的に参加しています。今回いただいた課外活動活性化経費は、シャトルなどの消耗品の購入に使用させていただきました。これからも楽しさと厳しさを両立しながらバドミントン部を発展させていきたいと考えておりますので、今後ともご支援、ご協力よろしくお願いいたします。

各大会の成績は以下の通りです。

・東国体：7位(団体)・秋季豊橋リーグ 1部：5位(団体)  
5部：4位(団体) 8部：4位(団体)



## 硬式野球部

機械工学課程 1 年 川崎 泰輔

顧問教員：電気・電子情報工学系 教授 澤田 和明

特定准教授 土谷 徹

部員数：学部 15名

昨年に引き続き硬式野球部の活動をご支援いただきまして有難うございます。現在は 4 年生 2 人、3 年生 9 人、2 年生 2 人、1 年生 2 人の計 15 人で活動しています。顧問として電気電子情報工学系教授の澤田和明部長と特定准教授の土谷徹監督にご支援・ご指導いただいております。練習は主に火曜・木曜の放課後と土曜の午後に行っています。

私たち硬式野球部は愛知大学野球連盟に加盟しており、春季と秋季の年 2 回のリーグ戦があり、現在は 3 部リーグに所属しています。今年度の成績は、春季は 3 部 A リーグ 5 位、秋季は 3 部 A リーグ 5 位と、3 年次からの新入部員が多く昨年のチームからいっそうと力をつけてきました。

授業等の関係で平日の練習は全員揃うことが難しく、主に個人練習や基礎的な練習を行い、土曜日に全体練習や実戦的な練習を行っています。冬場のオフシーズンは筋トレや走り込みなど、体作りを目的とした練習を行っています。リーグ戦前にはオープン戦を積極的に組んで、リーグ戦に備えています。今回は、ティーネット 1 台、バットケース 2 個、ボールケース 1 個、キャッチャー用防具ケース 1 個、ピッチャープレート 1 個援助していただきました。

来年度は、冬場にしっかりトレーニングを積み、新入生とも力を合わせ、1 勝でも多く勝利を積み重ね、充実したリーグ戦にしたいと思っています。今後ともご支援の方よろしくお願い致します。



## 軟式野球部

建築・都市システム学課程 3 年 長尾 将吾

顧問教員：電気・電子情報工学系 教授 澤田 和明

部員数：学部 16名, 大学院 8名

この度は、課外活動活性化経費としまして、軟式野球部の活動をご支援いただき、誠にありがとうございます。部員一同、心よりお礼申し上げます。

今年度は、以前から使用しており劣化も進んでいたユニフォームに代わり、新しいユニフォームを作成することになりました。そこで、今回の援助金はその作成費用に使用させていただきました。デザインは、豊橋技科大のコミュニケーションマークのカラーでもある赤を取り入れ、テイストを一新しました。

現在、軟式野球部は、主に土曜日の午前中を中心に練習を行っています。ノック、シートバッティングを中心に、人数が揃えば実戦形式での練習を行います。また、国体予選、豊橋野球協会 BC 級大会、豊橋野球協会長旗争奪大会などといった軟式野球の大会は、日曜日を中心に開催され、毎年参加しています。特に、今年度の上半期に開催された、天王賜杯豊橋予選では、96 チーム中ベスト 4 という結果を残し、今後のさらなる可能性を感じました。さらに東国体に関してはどのチームも強豪であるゆえ、準硬式でも十分に戦える力をつけていきたいと考えています。

来年度は、各大会における優勝を目標に、一戦一戦に集中して戦い抜き、より一層充実したシーズンにしていきたいと思っております。新ユニフォームに袖を通し、心機一転、軟式野球部のさらなる発展のためにこれからも精進していく所存です。今後ともご支援、ご協力のほどよろしくお願い致します。



## 空手道部

機械工学課程 4年 森山 謙  
顧問教員:電気・電子情報工学系 教授 滝川 浩史  
部員数:学部 8名, 大学院 2名

この度は空手道部へ課外活動活性化経費を援助していただき、誠にありがとうございます。

空手道部は毎週日曜日と木曜日、隔週の月曜日にそれぞれ二時間の練習を行っています。そのうち、日曜日の練習においては外部講師として日本空手協会三河支部代表者の平野茂広先生を招いて指導を受けております。支援金は講師への謝礼金として使わせていただきました。

また、外部講師として平野先生だけではなく本校のOBを招くこともあったのですが、支援金の付与により練習に参加していただく機会が多くなり、練習の質を高めることができました。今までの基本に重点をおいた練習はもちろんのこと、型や組手の練習を増やすことができました。

今年度は数年ぶりに参加した東国体で入賞するという夢はかないませんでした。しかし支援金の付与により練習の質が向上したので来年度、またそれ以降の東国体をはじめとした各種大会において今までより優れた結果を挙げることができるものと思われま

す。皆様から支援していただいているということを今後も忘れずに大学院 2名学部 8名計 10名の部員一同、精一杯精進していきたいと思



## 水泳部

建築・都市システム学課程 4年 江口 悠貴  
顧問教員:機械工学系 准教授 竹市 嘉紀  
部員数:学部 26名, 大学院 13名

今年は去年に比べ水泳部は幅広く活動することができました。

大学のプール締め期間中(4月まで)は、公共プール施設での練習に1回500円かかり、参加人数が少なく十分な練習ができないなどの問題がありましたが、課外活動活性化経費で大幅に部員の負担が少なくなり、1回の練習では10名ほど参加し、一生懸命に練習を行っています。今後、大学のプール締め後(9月~)も公共プール施設を利用するため、部員に負担がかからないように練習をしていこうと考えています。

練習する機会が増え、部員も活動しやすくなったため、去年参加できなかった新人戦にも参加することができました。この大会では競技を行うとともに学生同士での交流を図るもので、好成績を残すことができました。

今年は初心者が多く入ってきており、練習形式を変更し初心者でも安心して楽しく活動できるようにしました。その際に水着、スイミングキャップ、ゴーグルなどが必要で自己負担がかかるため、一からデザインしたスイミングキャップを課外活動活性化経費で作成して配布をし、部員の自己負担を低減しました。

今後の活動として、今年二回目の出場となる中部学生秋季室内水泳記録会や初出場の中部学生春季水泳競技大会があります。課外活動活性化経費により、公共のプール施設を利用するための自己負担を減らすことで、部員の練習回数を増やし、各部員が好成績を収めることを期待しています。



## 弓道部

機械工学課程 3年 宮内 慎  
顧問教員:電気・電子情報工学系 教授 澤田 和明  
部員数:学部 24名, 大学院 13名

この度は、私たち弓道部に課外活動活性化経費のご援助をいただき誠にありがとうございます。経費は弓三張の購入と今年度分の道場使用料、弓具の整備等に使用させていただきました。部員一同心よりお礼申し上げます。

現在の弓道部は澤田和明先生に顧問をしていただいております。また練習は学内に弓道場がないため、大学周辺の野依八幡社の弓道場を借りて行っています。

今年度は経験者こそ少ないですが、新たに弓道を始める者を合わせて十名以上が入部し、昨年度よりもさらに活気が増した環境の中練習を行うことが出来ています。今夏の合宿は学部生、大学院生はもちろん、昨年入部したドイツ人留学生も参加してくれ、計二十名以上の賑やかな雰囲気の中、それぞれが親睦を深めながら行うことができました。参加者の中では初心者が半分程度を占めましたが、教える側、教えられる側が真剣に向き合いながら練習に取り組んだ結果、最終的には坐者を含め、参加者全員で競射を行うことが出来るまでに至りました。今年度はまだ各大会での好成績を収められてはいませんが、来年度以降での大会や段位取得、昇段に向けたさらなる練習の質向上のために、現在は毎週市営道場にまで出向き、高段位所持者の方々にご指導を仰ぎながら日々の練習に励んでいます。

これからも一つ一つの練習を大切にしながら精進して参りますので、今後ともご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。



## 軽音楽部

建築・都市システム学課程 3年 仲山 隆人  
顧問教員:電気・電子情報工学系 准教授 稲田 亮史  
部員数:学部 28名, 大学院 27名

この度は、軽音楽部に課外活動活性化費をご支援いただき、誠にありがとうございました。部員一同心より感謝申し上げます。今回、課外活動活性化費はギターヘッドアンプの購入に使わせて頂きました。ギターヘッドアンプは練習・ライブ活動を行う際欠かせないものであり、今回のご支援によって部員がより一層充実した練習・ライブ活動に取り組むことが出来るようになりました。

私たち軽音楽部は今年度、学部生 28 名、大学院生 27 名の計 55 名で活動しています。主な活動として、学内コモンズにて行われる定期ライブや学園祭への出演、他大学サークルとの合同ライブ、年に一回、豊橋駅前のライブハウスを貸し切って行うライブイベントなどを行っています。また、サークル内の活動だけに留まらず、ライブハウスへの出演や外部イベントに参加するバンドも多く、日々精力的に活動を行っています。

ライブの運営に関しては、サークル活動を主体となつて動かしている幹部会が企画を行っていますが、会場の設営や照明・音響の管理など部員それぞれに役割があり、部員全員でのライブ運営を心がけています。

皆様からご支援をいただいて軽音楽部が活動を出来ているということを忘れず、今後も演奏技術の向上、部員全員での運営や活動を心がけ、より良いサークル活動にしていきたいと思います。今後ともご支援のほどよろしくお願い致します。



## JAZZ研究会

情報・知能工学課程 4年 川又 康了  
顧問教員：情報・知能工学系 教授 三浦 純  
部員数：学部 41名, 大学院 16名

この度は、課外活動活性化経費によるご支援を賜り、誠にありがとうございます。

本サークルはジャズをはじめとする音楽の演奏や鑑賞を行うサークルです。技科大祭や新入生歓迎会など学内での演奏はもちろんのこと、他の大学での演奏や豊橋・浜松ジャズ祭りなど学外での演奏も積極的に行っております。音楽理論講座やセッション会などサークル内での定期的な活動や、月一回程度のコモンズIでの演奏会などを通して、演奏意欲や技術の向上を目指しています。

今回いただいた経費は、ウッドベースの購入に使用しました。ウッドベースはジャズの誕生から現在に至るまで使用されている楽器であり、ジャズに親しむことを目的とする本サークルにとって必要不可欠な物品です。

先日の技科大祭で運営したジャズ喫茶では、このウッドベースを用いた演奏を披露しました。また、新入部員や初心者を対象に、部内でウッドベースの弾き方、扱い方を教える講習会を実施しました。これを機に多くの部員がウッドベースの練習を始め、より充実した活動ができるようになりました。重ねてお礼を申し上げます。今後は部内でのライブ活動はもちろん、外部イベントでの演奏でも活用していきたいと考えています。

これから練習を重ね、より良い演奏ができるように努力していきたいと考えています。今後ともご支援の程よろしくお願いいたします。



## アカペラサークルJ.U.S.T.

機械工学課程 3年 夏原 大悟  
顧問教員：国際交流センター 准教授 吉村 弓子  
部員数：学部 63名, 大学院 27名

この度は、私たちアカペラサークル J.U.S.T. をご支援いただき、誠にありがとうございます。部員一同を代表して心から御礼申し上げます。

アカペラサークル J.U.S.T. は、本学の技科大祭や本サークル主催のアカペラライブ、他大学のアカペラライブなどでアカペラライブパフォーマンスを行っております。活動としましては、週に1度の全体発声練習に加え、それぞれのバンドごとで日々練習を重ねております。他大学のサークルに比べ、学部生から大学院生までたくさんの部員が所属しているため、上下関係のつながりが強く、練習の際はアドバイスが飛び交うとても活発なサークルです。今年度は40人近い部員が入部し、より一層活動が活発となっております。今年は豊橋駅前でのライブや、静岡大学、愛知教育大学、本学との三大学共催ライブ、技科大祭ライブの J.U.S.T. 主催ライブを開催しました。中でも、豊橋駅前でのライブではたくさんのお客様に足を止めていただき、お楽しみいただきました。

今回、ご支援いただいた課外活動活性化経費は、ライブに必要なスピーカー、マイクの購入に充てさせていただきました。

多くの方々のご支援によって、活動できていることを忘れず、皆様のご期待に添うべくこれからも精一杯活動してまいりますので、今後ともご支援のほどよろしく願い申し上げます。また、お時間があれば、ぜひアカペラライブへお越しください。お待ちしております。



## ロボコン同好会

機械工学課程 3年 新庄 未空

顧問教員: 機械工学系 准教授 佐野 滋則

部員数: 学部 24名, 大学院 18名

この度は我々ロボコン同好会に、課外活動活性化経費よりご支援いただき誠にありがとうございました。今年は頂いた経費は、古くなっていたCN Cミリングと卓上フライス盤の新調及び、精度・加工効率向上のための3Dプリンタの購入に当てさせていただきました。

部員一同心よりお礼申し上げます。ロボコン同好会は「ABUアジア・太平洋ロボットコンテスト」出場と優勝を目指して活動しています。今年は国内大会「NHK学生ロボコン2017」において予選2位通過で惜しくも優勝は逃しましたが、ベスト8という成績を残しました。来年度こそは、NHK、更にはABUでの優勝を目指します。

活動はこれに限らず大学間の技術交流等にも力を注いでおり、「東海地区交流ロボコン」を企画しました。この大会には1年生だけのチームと上級生チームの2チームが参加し、準優勝とベスト4という成績を取ることができました。また、地域交流の一環として、子供たちにロボットを身近なものと感じてもらうため、毎年「青少年のための科学の祭典」や「子どものための科学展」など、地域のイベントにも積極的に参加しています。

現在、「NHK大学ロボコン2018」に向けて学部生24人、大学院生18人の計42人で活動しています。来年の競技は玉をスポットに投げ入れる競技で、精密な動作と速さが重要になります。ご支援を糧に、部員一同精一杯尽力して参ります。今後のロボコン同好会の活躍にご期待ください。



## 自動車研究部

機械工学専攻 修士1年 小寺 高德

顧問教員: 機械工学系 教授 柳田 秀昭

部員数: 学部 23名, 大学院 13名

私たち自動車研究部は、全日本学生フォーミュラ大会に参戦するために日々活動を行っております。全日本学生フォーミュラ大会は、学生が企画・設計・製作したレーシングカーについて、車の走行性能だけでなく、設計力・コスト計算力・販売戦略も審査される、ものづくりの総合力が評価される大会です。授業では学ぶことのできない経験をする中で、自動車技術並びに産業の発展・振興に資する人材を育成するという趣旨があります。平成29年度は、修士13名、学部23名の計36名の部員が自分たちで資金集めや設計、製作を行い、大会に臨みました。

今回ご支援いただいたのはレーシングスーツ、カッティングフィルム、転写シートです。レーシングスーツはドライバーが安全の為に着用しなければならない装備の一部であり、車輛を運転する際に使用しました。従来使用していたものは老朽化が進んでいたため新しいスーツにすることでドライバーの安全を確保できました。カッティングフィルム、転写シートは車輛に張り付けるスポンサーシールの作製に使用しました。

2017年大会ではエンデュランス5位、総合成績16位、ベスト電器回路設計賞3位を獲得できました。このような結果を取ることができたのは、皆様のご支援のおかげです。自動車研究部部員一同、心より御礼申し上げます。



## おちゃのかい

環境・生命工学課程 3年 駒津 健太  
顧問教員：環境・生命工学系 講師 梅影 創  
部員数：学部 18名, 大学院 12名

平素はおちゃのかいをご支援いただき、厚くお礼申し上げます。

現在、おちゃのかいは毎週火曜、金曜に学外から裏千家茶道の先生お二人にお越しいたいただき、日々稽古に励んでおります。このたび頂戴しました援助金は両先生方への謝礼金やお道具代に充てさせていただきました。おかげをもちまして部員一同楽しく茶道を学ぶことができております。おちゃのかい一同、改めてお礼申し上げます。

おちゃのかいでは毎年 9 月に豊橋公園三の丸会館にて、「ふつうの茶会」と銘打った茶会を催しております。この茶会には一般の方ももちろん、OB や他大学の茶道部など多くの方にお客様としてお越しいたいただき、部員にとって目標ともなる 1 年間で最も大きな行事となっております。また、10 月初めの技科大祭では、「技科大庵」と称し、学内や一般の方にお抹茶とお菓子をお出ししています。今年も多くのお客様に来ていただき、昼過ぎには用意していたお菓子がなくなるほどの盛況ぶりでした。この行事では、茶道を始めて 1 年目の部員が初点前の場もあり、皆とても緊張しているようでしたが、稽古の成果が表れたとてもいい点前ができたと思います。

最後になりますが、今後も多くの方に茶道の世界を楽しんでいただけるよう部員一同日々の稽古に励んでいきたいと考えております。今後ともご指導ご鞭撻ならびにご支援賜りますようよろしくお願い申し上げます。



技科大庵での点前の様子

## 総合文化部

環境・生命工学課程 4年 坂本 隼規  
顧問教員：環境・生命工学系 講師 山田 剛史  
部員数：学部 53名, 大学院 22名

この度、私たち総合文化部へご支援いただき誠にありがとうございます。部員一同、心よりお礼申し上げます。

総合文化部は、演劇、レゴ、写真、文芸および音楽技術の 5 つの文化系サークルの集合体で、それぞれの部門ごとに作品の作成、イベントへの参加などの活動を行っています。毎年 7 月ごろには、「総文 Days」と題したイベントを企画し、2 日間にわたり学内にて演劇の公演、レゴ作品および写真の展示、文芸冊子や自作音楽 CD の配布を行っています。

ご支援いただいた課外活動活性化経費は、文芸部門の部誌の印刷、製本代および演劇部門の名古屋学生演劇祭への出場費として使用させていただきました。これまで、文芸部門の部誌は学校のコピー機を利用した手作りの製本でしたが、今年度ご支援いただいた課外活動活性化経費により、製本を製本会社に依頼することができました。文芸部門が多くの人にとってより魅力的になる為に、部誌は学校での配布及び部活紹介時の見本として活用します。

演劇部門は今まで学内での公演がほとんどで、多くの他団体が参加する演劇祭への参加はしていませんでした。今回、初めて名古屋学生演劇祭へ参加することで、大変貴重な経験をすることができました。

今回のご支援のことを忘れず、引き続き総合文化部全体の活性化に努めてまいりますので、今後ともよろしく願いいたします。



## 模型部

環境・生命工学課程 4年 権田 裕樹

顧問教員: 情報・知能工学科 准教授 菅谷 保之

部員数: 学部 12名, 大学院 3名

この度は模型部の活動に対してご支援をしていただき、誠にありがとうございます。部員一同、心よりお礼申し上げます。本模型部は設立から今年で 8 年目を迎えました。本年度も新規部員に恵まれ、週 2 回の活動を主に新入生歓迎会や技科大祭での展示、部内コンペティションなどで技術の向上に励んでいます。また、ブログや Twitter での情報発信、展示会への参加を通して外部との交流を行い、模型文化の普及に励んでいます。

今回のご支援により購入させて頂いたプラモデルは、毎年技科大祭で開催している児童向けの模型製作体験教室にて使用させて頂きました。模型部発足直後から開催しているこの体験教室は今年も大盛況で、用意した全てのプラモデルを子供たちに作ってもらうことができました。また、参加した子供たちと作ったプラモデルの記念写真を撮影し、その場で印刷したものを渡すという企画も好評で、「ものづくりの楽しさ」を形あるものとして残してあげることができました。これからも模型教室を通して、子供たちにプラモデルの楽しさを知ってもらくと同時に、「ものづくりの楽しさ」についても伝えていければと思います。

模型部も設立から 8 年が経ち世代交代も起きてきていますが、部員の協力もあり、状況の変化に柔軟に対応できています。これからも模型を通して「ものづくりの楽しさ」を伝えていければと思っています。今後ともご支援のほどよろしくお願いいたします。



## ダンスサークル

機械工学専攻 修士1年 猪狩 溪太

顧問教員: 国際交流センター 准教授 ライアン・ユージン

部員数: 学部 18名, 大学院 7名

今年度もダンスサークル gille workers への課外活動活性化経費のご支援誠にありがとうございます。今回購入させていただいたキャスター付鏡により、日々の練習で全体が見える鏡が使用できるようになりました。細かいところまで振りの確認ができる上に、大人数での基礎トレーニングを同時に行うことも可能になりました。ダンスに必要な基礎の向上だけでなく、互いに教えあえる環境づくりにも繋がり、サークルの雰囲気向上が達成できました。

現在、学部 18 人、大学院 7 人の計 25 人で活動しており、顧問のライアン・ユージン先生（国際交流センター 准教授）の協力のもと、練習に励んでおります。今年度は昨年にサークルとしての初めての卒業生を出し、新体制でサークルをスタートしました。今年度も昨年度同様、多くのダンスイベントの参加、学内や市内イベントでの交流を行っております。また、今年度も技科大祭に参加させていただき、多くの方に観覧いただきました。OBの方々にも支援をいただき、部員全員が熱心にダンスに取り組んでおります。

キャスター付き鏡を使用しながら、今後も多くのダンスイベントに参加するのは勿論のこと、さらにサークルとして飛躍するために、日々努力していきます。この度のご支援誠にありがとうございます。今後ともご支援のほどよろしくお願いいたします。



## ジャグリングサークル じゃぐだらりん

情報・知能工学課程 4年 三宅 修平

顧問教員: 国際交流センター 准教授 村松 由起子

部員数: 学部 12名, 大学院 17名

この度は、我々ジャグリングサークル「じゃぐだらりん」(以下: じゃぐだらりん)に活性化経費のご支援をいただき誠にありがとうございます。

前年から更に学内、豊橋市内外の方々に認知していただけるようになり、地域のお祭りなどでのステージパフォーマンスやジャグリング体験会など、活躍の機会も広がってまいりました。また、部員それぞれが地方で開催されるジャグリングの合同練習会に参加し、他校の方と交流する機会も増えてきました。その結果、そこで知り合った方が普段の練習に来てくださって一緒に練習など活動の幅も広がっております。

これらの活動の背景には、体験会用の道具やパフォーマンス用具の充実があります。昨年度は活性化経費にて、体験会用の道具として不足していたディアボロや、今まで部では所有していなかったアイソレーションフープやグロッククラブといった道具を購入いたしました。これらの道具が新しく加わったことにより、ジャグリングをより多くの方に体験してもらうことができ、ステージパフォーマンスでは今までできなかった演技が行えるようになりパフォーマンスの幅が広がりました。

今後も体験会、ステージパフォーマンスを実施してより多くの人とジャグリングの楽しさを共有したいと考えています。今後ともご支援のほどよろしくお願い致します。



## 技科大祭実行委員会

機械工学課程 3年 山下 稔貴

顧問教員: 機械工学系 学生生活委員長 内山 直樹

部員数: 学部 30名

この度は、技科大祭実行委員会に課外活動活性化経費のご支援をいただき、誠にありがとうございました。同窓会の皆様にご支援いただいた活性化費用は、例年同様、技科大祭で使用されるステージのバックパネル製作材料の購入資金として活用させていただきました。このバックパネルは、下の写真のように技科大祭で使用するステージに飾られるもので、全学生に対しデザインの募集を行い、選ばれたデザインをもとに実行委員会のメンバーが製作します。バックパネルのデザインは、その年の技科大祭の方向性を表し、「顔」となる重要なものです。

第40回技科大祭は「外に出ろ!」というテーマで、技科大という一つの枠を超えた大きな祭りにしよう!という意味がこめられています。バックパネルも技科大祭のテーマにあった、「今までの枠に囚われない」というコンセプトのデザインとなっています。今年是他大学のダンスパフォーマンスや、お笑い芸人によるライブ、留学生による模擬店など、様々な人、文化と交流し合える技科大祭を目指しました。おかげさまで、今年は二日間合わせて2000人以上のお客様にご来場いただきました。

同窓会の皆様のご支援、ご協力のもと、今年度も無事技科大祭を執り行えましたことを、心より感謝申し上げます。今後ともよろしくお願い致します。



## 【同窓生への支援事業報告】

本学同窓生が参加する懇親会、パーティー等の交流活動を支援しています。平成29年度は11団体(平成30年2月現在)の助成を行いました。

なお、同窓生支援事業の詳細・申請方法は同窓会ホームページ (<http://www.alumni.tut.jp/>) に掲載されていますので、是非ご覧下さい。

### 接合加工／界面・表面創製研究室 同窓会

平成14年度 修了 山田 基宏

#### 開催概要

実施日 | 平成28年12月3日

開催場所 | 三代目鳥メロ 豊橋東口駅前店

出席者数 | 35名(内本学卒業・修了生12名)

機械工学系(旧生産システム工学系)の界面・表面創製研究室(旧接合加工研究室)では4年に一度夏季オリンピックの年に同窓会を開催しています。今回は3回

目の開催となり、今年は12月3日(土)の機械工学系合同同窓会に合わせて開催致しました。参加者は35名(同窓生12名)と少な目ではありましたが、旧友との歓談に花が咲き有意義な時間を過ごすことができました。次回は東京オリンピックの開催される2020年に、福本教授の定年に合わせて開催する予定です。皆様のご参加をお待ちしております。



### 海岸研 OB会

平成25年度 修了 中嶋 亮太

#### 開催概要

実施日 | 平成28年9月17日

開催場所 | Kai ときわ通り店

出席者数 | 21名(内本学卒業・修了生14名)



本懇親会は、海岸工学研究室が毎年豊橋で開催している同窓会です。今年も青木先生をはじめ、加藤先生、岡辺先生にもご参加いただき、在学時代の懐かしい思い出話に花が咲き、非常に楽しい時間となりました。

本会では幅広い年代の卒業生の方々および現役の学生にもご参加いただいておりますので、学年の壁を超えて縦に繋がる貴重な機会です。この繋がりは仕事・研究等の様々な局面で活かしていますので、今後とも継続的に開催したいと考えています。

来年は青木先生が還暦を迎えられる年であり、海岸研 OB会でも盛大にお祝いしたいと考えております。海岸工学研究室の同窓生の皆様のご参加をお待ちしております。

## 材料機能制御研究室 同窓会

平成 13年度 修了 戸高 義一

### 開催概要

実施日 | 平成29年 4月 8日

開催場所 | 豊橋技術科学大学 D-617

出席者数 | 41名(内本学卒業・修了生19名)

機械工学系 材料機能制御研究室では、毎年春に同窓会を開催しております。毎年 20 名ほどの卒業生・修了生に参加して頂き、交流が続いております。今年度は 4 月 8 日(土)に開催し、研究室の思い出話を花を咲かせました。今

回は、新たに助教として迎えることができました、研究室同窓生の足立望先生のお披露目も兼ねることになりました。研究室に新しく配属となった学部 4 年生・修士 1 年生を始め、在校生にとって、先輩と交流を深める良い機会となっております。足元の悪い中ご参加頂きました皆様に、感謝を申し上げます。また、次回は平成 30 年春に開催予定です。皆様のご参加をお待ちしております。



## 豊橋技術科学大学建設工学課程第 1 期 還暦同窓会

昭和 57年度 修了 戸田 敏行

### 開催概要

実施日 | 平成29年 5月 6日

開催場所 | ロワジールホテル

出席者数 | 30名(内本学卒業・修了生19名)

建設工学系第 1 期生の還暦を記念して還暦同窓会を開催しました。第 1 部は記念講演会で、恩師である名誉教授加藤史郎先生(テーマ:創設期の教育・研究)、現役教授の加藤茂先生(テーマ:現在の系の教育・研究)、

卒業生(大阪市立大学教授)森一彦氏(テーマ:ポスト都市化の福祉環境デザイン)の講演と学内見学を行いました。第 2 部は懇親会で、還暦という人生の節目に、卒業後 40 年間の様々な出来事についての思いを共有し、技科大建設工学系の創設から未来に至るスピリットを確認しました。参加者は卒業生 19 名、教職員 11 名の 30 名でした。



## 第8回 雲雀会

平成 17年度 修了 平本 隆

### 開催概要

実施日 | 平成29年 4月20日

開催場所 | ホテルトヨタキャッスル

出席者数 | 50名(内本学卒業・修了生50名)

トヨタ自動車株式会社に勤務する卒業生の年一回の会合。2010年より開催しており、今年は8回目の開催。本年は50名の参加申し込みがあり、1982年修了の大先輩か

ら今年の新入社員(まだ入社20日目!)まで幅広い年次のメンバーに参加いただきました。先輩方と新人が触れ合う場面も多く見られ、暖かいアットホームな会となり、終了後も話が尽きず時間が足りない様子でした。来年度も開催する予定で、より多くの方に参加いただけることを期待しております。



## 平成29年度同窓会定例総会出席者 懇親会

平成 13年度 修了 稲田 亮史

### 開催概要

実施日 | 平成29年 7月23日

開催場所 | 鮮魚専門 二六丸

出席者数 | 13名(内本学卒業・修了生13名)

平成 29年 7月 23日(日)に開催した同窓会定例総会開催後に会場を移動して懇親会を開催し、13人の同窓生有志の方々に参加いただきました。在学当時の思い出話や、同窓生として豊橋技科大の未来を見据えた熱い思い

を出身学科や年代を超えて語り合うことができ、短い時間でしたが非常に盛り上がった会となりました。当懇親会は、毎年定例総会後の恒例行事として3年前から継続開催しており、年々少しずつではありますが参加者数も増加しています。次年度も7月後半に開催する予定ですので、ご都合のつく同窓生の皆様は、是非ともご参加いただくと幸いです。



## 藤江先生ご退職 記念パーティー

平成 21年度 修了 蒲原 弘継

### 開催概要

実施日 | 平成29年 6月3日

開催場所 | レセプションハウス名古屋通信会館

出席者数 | 42名(内本学卒業・修了生30名)

元エコロジー工学系教授 藤江幸一先生のご退職記念パーティーを 6 月 3 日に愛知県名古屋市にて開催しました。当日は、日本国内はもとより、中国、韓国、インドネシアからも卒業生、同僚であった先生やその家族が 40 名以上集まり盛大なものになりました。当日は藤江先生のご退職

記念講演会にはじまり、これまでの先生の研究・教育活動を振り返りました。その後のパーティーにおいては、卒業生・修了生達からお祝いのスピーチや卒業生からのプレゼントの贈呈がありました。なお、今回の幹事は田畑智博先生（現神戸大学准教授）（2002 年度修了）が務められました。そして、次回同窓会の幹事は時川大輔さんに引き継がれることになりました。この記事を読んだ同窓生の方で連絡がっていない方は是非、ご一報ください。それでは、また次回、皆様とお会いできることを楽しみにしております。



## 森研究室 同窓会

平成 16年度 修了 安部 洋平

### 開催概要

実施日 | 平成29年 9月2日

開催場所 | Aloha Table Hawaiian Diner

出席者数 | 43名(内本学卒業・修了生24名)

平成 29 年 9 月 2 日に極限成形システム研究室（旧塑性加工研究室）同窓会を行いました。教授の森謙一郎教授のもと卒業生 24 名、在学生 13 名が集まりました。森先生より研究室の近況報告がありました。卒業生同士や在学生との間で近況や就職に関連する話題などで盛り上がりました。次回開催の際には参加をよろしく願います。



## 海岸工学研究室 同窓会

平成 27年度 修了 青木 勇介

### 開催概要

実施日 | 平成29年 9月9日

開催場所 | 華乃井テラス

出席者数 | 27名(内本学卒業・修了生20名)

本懇親会は、海岸工学研究室が毎年豊橋で開催している同窓会です。今年も青木伸一先生（技科大名誉教授）、加藤先生、岡辺先生のほか、新任の中村先生が参加されました。30人近い同窓生とともに、研究室での懐かしい思い出話や近況報告に花が咲き、非常に楽しい時間となりました。

また、今年は青木先生が還暦を迎え、同窓生・現役の学生で盛大にお祝いすることができました。

本会では幅広い年代の卒業生の方々および現役の学生にも参加いただいておりますので、学年の壁を超えて縦に繋がる貴重な機会です。この繋がりは仕事・研究等の様々な局面で生きていますので、今後とも継続的に開催したいと考えています。

海岸工学研究室の同窓生の皆様のご参加をお待ちしております。



## 電気電子・情報工学系 第一期生 還暦同窓会

1981年度 修了 高嶋 孝明

### 開催概要

実施日 | 平成29年 9月16日

開催場所 | 湯谷温泉 湯の風 HAZU

出席者数 | 37名(内本学卒業・修了生26名)

### 開催趣旨

昨年10月に大学創立40周年記念として開催された電気電子・情報系同窓会（三志会）の際に、一期生及び教員の二次会にて、一期生の大半が還暦を迎える今年に、皆が一泊して集って当時を懐かしく語り合おうと話が盛り上がり、今回の開催を計画することとなりました。

### 幹事：

高嶋孝明（発起人代表：現豊橋技科大教員 / 元 IBM）

古野志健男（豊橋技科大同窓会会長）

所哲郎（三志会会長）

### ネットワーク再構築

メールアドレスで連絡可能な同期生の連絡網を作成。Google Groups メーリングリストを活用して連絡のつく同期生・つかない同期生リストを共有。互いに知っている情

報・連絡先を収集して、最終的に68名中40名とメール連絡可能、そのうち26名が出席。当時の先生も17名とメール連絡がとれ、9名の先生が参加となりました。還暦同窓会の参加登録、同期生と共有して良いメールアドレス・電話・住所、近況などを Google Forms を活用して登録し、それらで得た情報を元に、一期生および教員名簿を作成し、同窓会の参加者および連絡を取ることが出来た同期生・先生に配布し、今後の同期生ネットワークをより強いものとし、活性化するために活用することとしました。また、同窓会の写真は Google Photo を活用して、メール連絡付く全員と即日共有しました。



## 計測システム研究室 同窓会

平成 23年度 修了 秋月 拓磨

### 開催概要

実施日 | 平成29年 9月16日

開催場所 | 豊橋技術科学大学

出席者数 | 51名(内本学卒業・修了生27名)

平成 29 年 9 月 16 日 (土) に計測システム研究室 同窓会を行いました。この会は、章 忠先生が本学に着任されて以降初めて開催するもので、当日は卒業・修了生や在学生、教職員含めて 51 名が集まりました。会では、まず章先生より研究室の近況報告がありました。その後、今年 3 月に本学をご退職された三宅哲夫先生をはじめ、堀畑聡先

生 (現日本大学教授)、今村孝先生 (現新潟大学准教授)、秋月拓磨先生 (現本学助教) の 4 名の先生方より「計測システム研究室と私のあゆみ」という題でご講演いただきました。当日は台風の影響が心配されましたが、おかげさまで大変盛況のうちに会を終えることができました。足元の悪い中ご参加頂きました皆様に、また会場設営等の準備に協力いただいた在学生の皆さんにあらためて感謝を申し上げます。また次回、皆様とお会いできることを楽しみにしております。





